沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展

発掘調査速報展２０１５　別巻

沖縄県の戦争遺跡

沖縄県戦争遺跡詳細確認調査の成果

沖縄県立埋蔵文化財センター

目次

沖縄県内の戦争遺跡の現状 …… 1

沖縄戦以前の戦争遺跡

（1）海底線関係施設 …… 2

（2）中城湾海軍需品支庫

（3）海軍望楼・海軍特設見張所

（4）中城湾臨時要塞 …… 3

（5）船浮臨時要塞 …… 4

（6）防空監視哨 …… 5

（7）戦争に関連する施設・記念碑

沖縄戦の戦争遺跡 …… 6

（1）飛行場 …… 7

（2）司令部壕

（3）陣地 …… 8 - 11

（4）特攻艇秘匿壕 …… 12

（5）学徒隊壕

（6）病院壕 …… 13

（7）官公庁壕

（8）御真影奉護壕 …… 14

（9）住民避難地 …… 14 - 17

（10）偽陣地 …… 17

（11）被災痕跡・破壊痕跡 …… 18

（12）収容所

戦争遺跡の発掘調査 …… 19

戦争遺跡の文化財指定 …… 20

沖縄県の戦争遺跡に関する年表 …… 21

米軍進攻図 …… 22

第32軍主要部隊配置図 …… 23

戦争遺跡分布図 …… 24 - 39

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、平成 22 年度より平成 26 年度にかけて、近代、主に沖縄戦において残された戦争遺跡について、文化財指定などの保存を検討するために測量等の記録調査を行ってきました。

平成 26 年度は、これまでの調査成果をまとめた調査報告書の作成を行い、『沖縄県の戦争遺跡 － 平成 22 ～ 26 年度戦争遺跡詳細確認調査報告書』として年度末に刊行いたしました。ここでは、その内容の幾つかを紹介します。

沖縄県内の戦争遺跡の現状

平成 10 ～ 17 年度にかけて実施した「戦争遺跡詳細分布調査」では、県内において 979 ヶ所の戦争遺跡の所在を確認しました。今回、再度遺跡数を整理確認したところ、報告時点で 1,076 ヶ所（※ 2015 年 6 月時点で精査したところ、1,077 ヶ所）あることが判明しました。

今回の調査報告書では、現時点で沖縄県内の戦争遺跡を考えるうえで重要な 145 遺跡について測量図・写真・各種資料などを掲載いたしました。これらの戦争遺跡は、今後、関係者の理解や協力が得られることで、さらに詳細な調査が行われ、文化財指定などの保存そして公開活用が図られることが期待されます。ただ、今回掲載していない戦争遺跡も、今後の調査等によりその内容が判明することで、重要性が指摘されるものも当然埋もれているものと思われます。

なお、戦争遺跡の見学や調査は、危険な場所も多く、個人の所有地であるところも多く、各教育委員会や関係者などに調整・相談を行うようにしてください。

沖縄戦以前の戦争遺跡

今回の調査報告書では、第 32 軍が南西諸島防衛のため創設された 1944（昭和 19）年 3 月 23 日以前のものを、「沖縄戦以前の戦争遺跡」として位置づけました。現時点では、89 ヶ所が確認され、そのうち 28 ヶ所を報告書に掲載しました。これらの遺跡を次の 7 ジャンルに分けて整理しました。

確認されている遺跡

（1）海底線関係施設……1 ヶ所

（2）中城湾海軍需品支庫……1 ヶ所

（3）海軍望楼・海軍特設見張所……5 ヶ所

（4）中城湾臨時要塞……3 ヶ所

（5）船浮臨時要塞……23 ヶ所

（6）防空監視哨……5 ヶ所

（7）戦争に関連する施設・記念碑……51 ヶ所

（1）海底線関係施設 確認されている遺跡…1ヶ所

日本政府は、1895（明治 28）年に日清戦争後の講和により台湾が日本の領有となったため、鹿児島ー台湾間に軍用海底線（ケーブル）を敷設しました。その施設として、通信所と海底線陸揚室が計画され、完成後は逓信省により移管されるため同省が施工しました。また、軍用だけでなく、公衆用にも利用されました。

●崎枝の海底線陸揚室跡（石垣市指定文化財）

海底線を陸上の通信所につなげるための施設で、1896（明治 29）年に石垣間切崎枝村に造られたものが現存しています。レンガを基礎とし、壁や屋根にコンクリートを張った建物です。建物全体に多くの弾痕が見られ、沖縄戦時における英米艦隊の攻撃によるものです。

崎枝の海底線陸揚室跡（石垣市指定文化財）

（2）中城湾海軍需品支庫 確認されている遺跡…1ヶ所

海軍は、日清戦争後の台湾経営において中城湾の重要性を認識しており、艦船が燃料等の補給のために臨時的に中城湾に寄港する港湾施設である海軍需品支庫を 1896（明治 29）年に設置しました。

●佐敷の水溜（給水タンク）跡（南城市）

中城湾海軍需品支庫の施設で、レンガ製の水溜です。約 5,000 坪の敷地に木造平屋の兵舎や石炭庫２棟、水溜、水源地などがあったとされます。

佐敷の水溜（給水タンク）跡（南城市）

（3）海軍望楼・海軍特設見張所 確認されている遺跡…5ヶ所

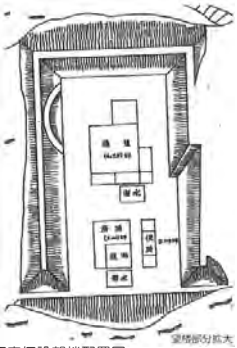
海軍望楼とは、海上の見張りや艦船間の通信や気象観測を任務とする施設で、元来は 1894（明治 27）年の日清戦争直前に制定された海岸望楼が、1900（明治 33）年に改称されたものです。沖縄県では、1904（明治 37）年に喜屋武と西表に開設されたようです。これらは建物跡などが確認されていますが、どちらとも 1907（明治 40）年以降に造られた鉱滓レンガが使用されていることから、第一次大戦が勃発した 1914（大正３）年に再度設置された海軍望楼のものと考えられます。なお、後に海軍望楼は海軍特設見張所と改称されており、久米島町上田森や石垣市平久保崎などに現存しております。

●西表海軍望楼跡（竹富町）

西表島の最西端に突きだした丘陵の平坦地に位置します。建物のコンクリート基礎や鉱滓レンガ積みなどが確認されています。

西表望楼跡遠景

建物跡
鉱さいレンガ積み

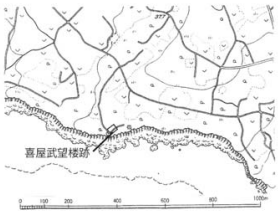


西表仮設望楼配置図（JACAR(アジア歴史資料センター）Ref. C05110172300、「極秘 明治 37．８年海戦史　第８部 会計経理 巻6．7．８別冊」防衛省防衛研究所蔵より）

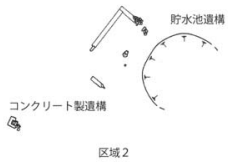
●喜屋武海軍望楼跡（糸満市）

現在は喜屋武岬の展望台となっており、駐車場や付近の茂みに水溜や建物の基礎が確認されています。

喜屋武望楼跡　区域１　全景



区域１　建物柱跡



区域２　貯水池遺構

喜屋武望楼跡　略測図

●平久保崎海軍特設見張所跡（石垣市）

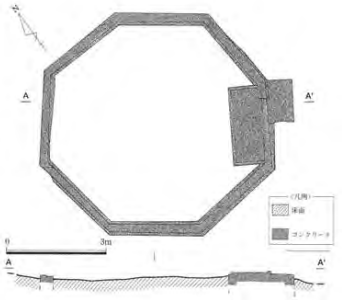
石垣島最北端の丘陵に位置し、見張所の基礎などが残されています。
基礎の平面は八角形で、径７ｍの大きさです。

平久保崎海軍特設見張所跡遠景

近景

アンカー跡

信号竿基礎


平久保崎海軍特設見張所跡　略測図（沖埋文 2006 より）

（４）中城湾臨時要塞　確認されている遺跡…3 ヶ所

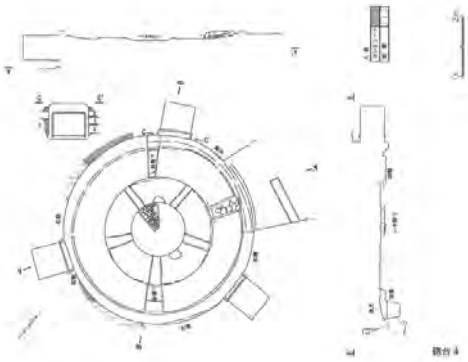
中城湾臨時要塞は、1922（大正 11）年に西表島船浮湾と同時に計画されましたが、同年に締結されたワシントン条約の軍縮によって中止されました。しかし、第二次世界大戦の勃発に伴う軍事情勢の変化により、真珠湾攻撃の半年前の 1941（昭和 16）年７月に、中城湾と船浮に臨時要塞部隊が編成されました。両方とも、重砲兵連隊を中心とした沖縄における本格的な常備軍として評価されます。

本要塞は、中城湾の警備を任務として、当初は与那原に要塞司令部・連隊本部、津堅島に第１中隊、伊計島に第２中隊、平敷屋に第３中隊、那覇に第４中隊が置かれました。その後、第２中隊は知念半島、第３中隊は小禄に移動し、第４中隊が廃止されるなど再編され、1944（昭和 20）年の第 32 軍編成後には、重砲兵第７連隊と改称し、米軍上陸を迎え激しい攻防戦を繰り広げました。

平屋敷砲台跡周辺　米軍 1944 年９月 29 日　撮影
（国土地理院空中写真　赤太線は砲台跡、青細線は兵舎跡か）

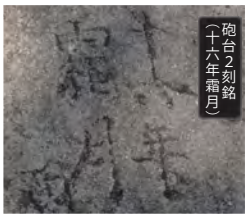
●平敷屋砲台跡（うるま市）

勝連半島のホワイトビーチが望める丘陵に、４基の砲台跡などの遺構が分布しています。砲台は、径６ｍの砲座に５本の脚部を据える溝があり、その構造から 88 式７センチ高射砲が据えられていた可能性があります。また、砲台の排水溝に「十六年霜月」と刻まれており、同部隊が 1941 年 11 月に戦備が整ったとされる軍資料と一致します。
※霜月とは、11 月の異称

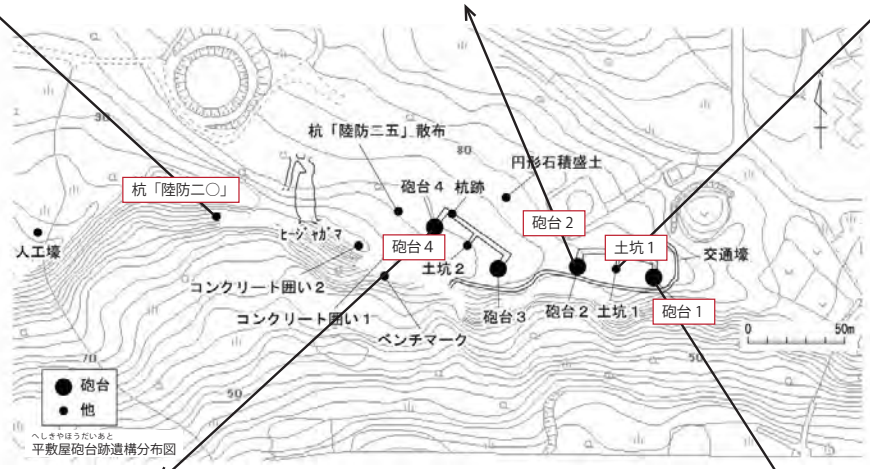

平敷屋砲台跡　略測図

杭（陸防二〇）

砲台２砲座


砲台2刻銘（十六年霜月）

土坑１コンクリート構築物



平敷屋砲台跡遺構分布図

平敷屋砲台跡　砲台４

砲台４　弾薬庫

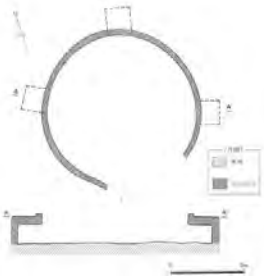
砲台１　枡状遺構

（５）船浮臨時要塞　確認されている遺跡…23ヶ所

船浮臨時要塞は、中城湾臨時要塞と同様、1941（昭和16）年に建設され、西表島西部の祖納半島、外離島、内離島、サバ崎の４管区が設置されました。戦後に大規模な開発がなかったこともあり、砲台、司令部、兵舎などが良好に残存しており、さらに詳細な調査が望まれます。

●内離島砲台跡（竹富町）

現在は無人島である内離島の標高120 mの丘陵に、２基の砲台跡、弾薬庫跡１基が確認されています。その立地から、高射砲が据えられたと考えられます。


内離島砲台跡　略測図（沖埋文2006より）

内離島砲台跡

砲台跡よりサバ崎を臨む

●船浮臨時要塞司令部跡（竹富町）

内離島の北海岸の低地に、司令部跡の建物基礎が２棟確認されています。すべてコンクリート製で、トイレや濾過槽なども見られます。

船浮臨時要塞司令部跡
建物基礎外枠

濾過槽

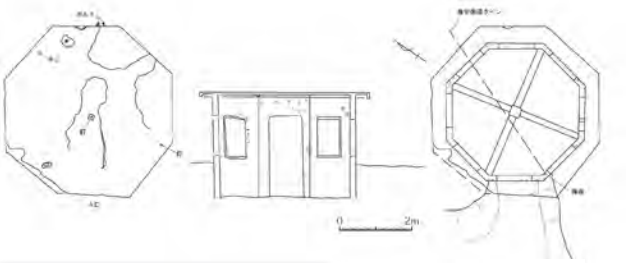
トイレ

（6）防空監視哨　確認されている遺跡…5ヶ所

防空監視哨は、敵機を早期発見する防空監視隊の見張所として、1943（昭和18）年には国頭・本部・金武・与那　城・嘉手納・那覇・糸満・久米島・宮古島・石垣島・西表島の県内11ヶ所で設置されたものです。その管轄は、沖縄県警警防課となっており、消防などの任務に防空監視も加わったためとされます。監視は、在郷軍人などの有力者の下に、地元の生徒や役場職員などがあたり、警察署を通して連絡業務を行ったようです。

内部

与那城防空監視哨跡　略測図



●与那城防空監視哨跡（うるま市）

屋慶名集落付近の標高15 mの丘陵頂部に位置し、金武湾を一望できます。平面が八角形で、平久保崎海軍特設見張所などに類似しますが、径3.8 mとやや小ぶりなものです。

与那城防空監視哨跡

天井より金武湾を臨む

内側壁面の弾痕

（7）戦争に関連する施設・記念碑

確認されている遺跡…51ヶ所

直接戦争に関連するものではありませんが、戦意・愛国心を高揚する場もしくは役割を担ったと考えられる施設・記念碑も戦争遺跡の一ジャンルとして捉えられます。大きく3つの種類（忠魂碑、奉安殿、天皇関係記念碑）があります。

忠魂碑・・・27ヶ所

戦死した兵士を祀った記念碑で、日露戦争後に多く造られた石碑

●旧美里村の忠魂碑（沖縄市指定文化財）

1934（昭和9）年、旧美里尋常高等小学校内に建立されたものです。忠魂碑は、銃弾形で台座には星形が刻まれています。

●座間味村の忠魂碑（座間味村）

1941（昭和16）年、現在の座間味小学校の裏手にあり、県内で一番最後に造られた忠魂碑です。

表面

座間味村の忠魂碑

裏面

座間味村の忠魂碑台座には、軍歌の「海ゆかば」の歌詞

前面階段の弾痕

「昭和十六年七月　土木建築請負業合資会社宮本　那覇市西本町五丁目」と建造業者名などが記された土台

奉安殿・・・4ヶ所

御真影（学校に下賜された天皇・皇后の公式肖像写真、沖縄県が一番最初に下賜された）や教育勅語を保管するための施設

●石垣市登野城小学校の奉安殿（石垣市指定文化財：歴史資料）

1930（昭和5）年、旧登野城尋常高等小学校の奉安殿として建設されたものです。アーチ状の屋根には菊花紋がレリーフされています。

登野城小学校の奉安殿

石垣市登野城小学校の奉安殿（内部）木製の棚も当時のもので残りが良い。

天皇関係記念碑・・・20ヶ所

天皇の即位や皇太子の誕生・「御成婚」、「紀元二千六百年祭（昭和15年）」の記念碑

●川平のミンカザント（伊江村）

1934（昭和15）年の紀元二千六百年を記念し造られたセメント製の貯水施設です。

●糸満市山巓毛の国旗掲揚台碑（糸満市）

1933（昭和8）年の皇太子誕生を記念して翌年に造られたものです。

沖縄戦の戦争遺跡

沖縄戦の戦争遺跡は、詳細な内容が不明なものも含めて985ヶ所(※2015年6月現在　986ヶ所)を数え、そのうち117ヶ所を掲載しました。これらの遺跡は、次の12ジャンルに分けて整理しました。なお、各ジャンルの遺跡数のうち複合としたのは、数ジャンルにまたがっているものです。また、この12ジャンル以外に、その他（16ヶ所　戦争に関連する建造物や碑など）、性格が不明なもの（71か所　性格が不明な人工壕や自然洞穴など）もあります。

確認されている遺跡

（1）飛行場……12ヶ所
（2）司令部壕……単体　9ヶ所、複合1ヶ所
（3）陣地……単体309ヶ所、複合43ヶ所
（4）特攻艇秘匿壕……単体20ヶ所
（5）学徒隊壕……単体　3ヶ所
（6）病院壕……単体13ヶ所、複合3ヶ所
（7）官公庁壕……単体　9ヶ所、複合4ヶ所
（8）御真影奉護壕……単体　4ヶ所、複合1ヶ所
（9）住民避難地……単体407ヶ所（※2015年6月現在408ヶ所）、複合38ヶ所
（10）偽陣地……単体　1ヶ所
（11）被災痕跡・破壊痕跡…単体67ヶ所
（12）収容所……単体　1ヶ所

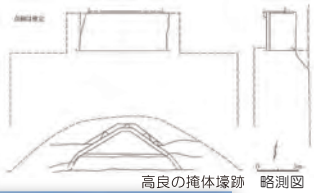
（1）飛行場 （確認されている遺跡…12ヶ所）

第32軍は当初、航空作戦を準備するための飛行場建設を主な任務としており、最終的に15ヶ所の飛行場が沖縄県内に造られました。戦後、滑走路や関連施設の大半は消失してしまいましたが、飛行機を格納する掩体壕、戦闘指揮所などが確認されています。

●高良の掩体壕跡（那覇市）

現在は航空自衛隊那覇基地内にあり、海軍小禄飛行場に伴うものとして造られたようです。飛行場は1933（昭和8）年に造られましたが、大規模な整備が始まったのは1943（昭和18）年以降なので、この掩体壕もそのころに造られたと考えられます。現存しているものは飛行機の後尾部分を収納する部分で、本来は幅30mにも及び、大型の飛行機を格納していたものと推測されます。

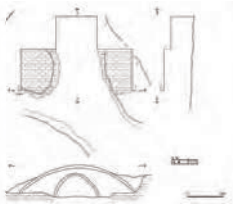
高良の掩体壕跡　遠景


高良の掩体壕跡　略測図

高良の掩体壕跡　正面

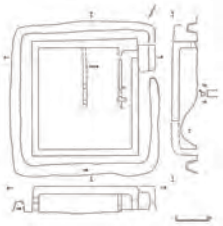
●大浜の掩体壕跡（石垣市）

2013（平成25）年3月まで利用されていた旧石垣空港の滑走路北西側に位置するもので、1944（昭和19）に建設された石垣島海軍南飛行場に伴うものとして造られたようです。掩体壕の幅は長さ15mであるので、小型の飛行機が格納されていたものと思われます。


大浜の掩体壕跡　略測図

●陸軍宮古島中飛行場戦闘指揮所跡 （宮古島市）

野原集落の南西側の畑地に位置し、1944（昭和19）年に建設された陸軍宮古島中飛行場に伴うものと考えられているコンクリート製構築物です。


陸軍宮古島中飛行場戦闘指揮所跡
略測図

（2）司令部壕 （確認されている遺跡…単体9ヶ所、複合1ヶ所）

沖縄県に配備された第32軍、海軍沖縄方面根拠地隊、各師団・旅団は、通信・連絡・指揮機能をもつ中枢としての司令部をそれぞれ有しています。これらの司令部は、当初陸上に行政施設や学校などの建物を利用していましたが、戦況悪化に伴い、人工壕や自然洞穴に移転することになりました。また、司令部壕も戦況に合わせ、数度移転したものもあります。

●第32軍津嘉山司令部壕（南風原町）

第32軍司令部壕は、1944（昭和19）年4月22日より南風原町津嘉山に当初構築されました。この一帯は軟質な地盤であるクチャ層のため、構築しやすい反面、強度に問題がありました。戦後は埋没したために長らくその実態は不明でしたが、南風原町教育委員会が2005・2006（平成18・19）年度に道路建設のため発掘調査を部分的に行うことにより、その存在が明らかになりました。

津嘉山司令部壕跡　発掘調査状況

坑木列 検出状況

●第32軍首里司令部壕（那覇市）

1944（昭和19）年10月10日の10・10空襲により、更に強固な司令部壕が必要となったため、12月以降に首里城の地下で構築が始まりました。当時「一大地下ホテル」とも称された約1,000m以上の大規模で常時灯りがともされていた壕であったようです。安全面の配慮のため、現在は公開されていません。

首里司令部壕跡　第5坑口

第3坑口内部

●第32軍摩文仁司令部壕（糸満市）

第32軍司令部は、米軍上陸後の戦況が絶望的となった1945（昭和20）年5月後半に、摩文仁の89高地と呼ばれた自然洞穴を利用した陣地壕に移ることになりました。その後、6月23日に第32軍司令官牛島満と参謀長長勇は自決し、日本軍の組織的な戦闘が終了したとされます。しかしながら、一部の部隊の抵抗が見られたためため米軍の掃討戦は続き、多くの住民の苦しい避難が続きました。

摩文仁司令部壕跡　壕口

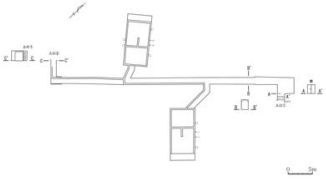
内部

●鏡水（かがんじ）海軍司令部壕（那覇市）

現在は陸上自衛隊那覇基地内にあるもので、海軍部隊の司令部壕として最初に造られ、10・10空襲以前に利用されていたようです。地上にコンクリートで天井を構築した直線的な壕で、戦闘にあまり適しなかったとされます。

鏡水海軍司令部壕跡　壕口

通 路


鏡水海軍司令部壕跡　略測図（前回分布調査時作成）

アーチ型の天井

●豊見城（とみぐすく）海軍司令部壕（豊見城市）

現在は「海軍壕」として広く利用され、観光客が多く訪れます。10・10空襲時には、鏡水司令部壕では大きく揺れたため、更に強固な壕を豊見城の丘陵に構築しました。部分的にコンクリートを利用することや、アーチ型の天井は海軍が構築した壕の特徴と考えられます。

豊見城海軍司令部壕跡　案内図

通 路

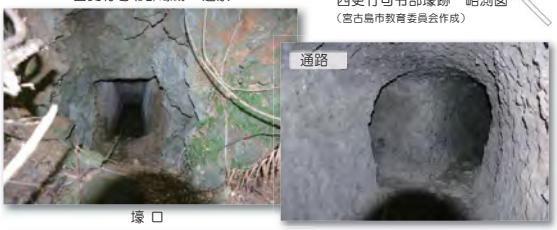
作戦室

●西更竹（さらたけ）司令部壕（宮古島市）

宮古島の中央部にあたる城辺字長間の丘陵地に位置し、地元では知られていましたが、宮古島市教育委員会の調査でその存在が明らかになりました。総延長約220mにも及ぶ人工壕で、直線的な通路に18もの小部屋が規格的に取りつく構造であることから、司令部としての性格が想定されました。近隣の西城小学校に第60旅団司令部が置かれていたとされており、この壕を利用していたものと考えられます。

西更竹司令部壕跡　遠景

西更竹司令部壕跡　略測図
（宮古島市教育委員会作成）



壕 口

通 路

（3）陣地　確認されている遺跡…単体309ヶ所、複合43ヶ所

沖縄戦では、上陸戦を意識して多様な陣地が造られました。各陣地は複合的な機能・性格を有していますが、今回は特徴的な部分に注目し、次の6つに分類しました。

①砲台

大砲などの火器を設置するための台座を中心とした施設で、弾薬庫などの関連施設をもつものもあります。

●楚辺（そべ）海岸の砲台跡（読谷村）

楚辺海岸に突き出た石灰岩の岩陰を利用した砲台跡で、南を向いています。岩陰の前面に厚さ1mのコンクリート壁を設け、西側に大砲が据えられる砲口、東側に座って小銃・機関銃などが構えられる銃眼が設けられています。

楚辺海岸の砲台跡　略測図

東側の銃眼射撃姿勢想定状況

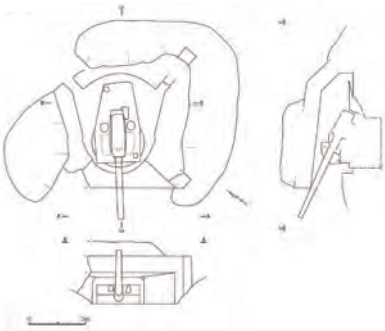
西側の砲口外面

●当間（とうま）海軍砲台跡（那覇市）

現在は航空自衛隊那覇基地内にあり、西側に広がる東シナ海を含めた周囲が望める丘陵に位置します。大砲を設置しその全体を覆うための掩体をコンクリートで構築しており、前面が一部損壊している他は非常に残りが良いものです。大砲は口径20㎝砲で、重巡洋艦の主砲を転用したものと考えられます。沖縄戦で使用した大砲が唯一原位置で現存している極めて重要な遺跡です。

当間海軍砲台跡　砲門

掩体内部鉄筋の露出状況


当間海軍砲台跡
略測図

設置大砲の細部

②トーチカ・銃眼（じゅうがん）・銃座（じゅうざだい）

日本軍は、基本的に水際防御を第一としており、沖縄各地でも海岸にトーチカ・銃座・銃眼を配した水際陣地を多く造っています。

- ■トーチカ…コンクリート製の防御陣地で、監視を兼ねた銃が構えられる窓（銃眼）をもつもの。
- ■銃　眼…全体がコンクリート製ではなく、窓が１つしかない遺構を便宜的に称したもの。
- ■銃　座…窓ではなく、護岸などに銃身を通すための溝などが掘られたもの。

●ギナン原のトーチカ跡（恩納（おんな）村）

瀬良垣海岸の干潮時は歩いて渡れる小島に、礫が多く混じったコンクリートで造られた銃眼です。銃眼は海側を向いているのではなく海岸を向いており、上陸した敵を背斜（はいしゃ）するために造られたものと考えられます。なお、恩納村の海岸には、本遺跡を含め４つの銃眼が現存しています。

ギナン原のトーチカ　近景
（恩納村教育委員会撮影）

内部
（恩納村教育委員会撮影）

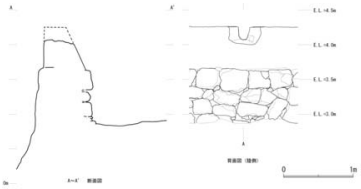
後背出入口
（恩納村教育委員会撮影）

ギナン原のトーチカ 略測図（恩納村教育委員会作成）

恩納村のトーチカの分布（恩納村教育委員会作成）

●川田・塩屋の銃座跡（うるま市）

中城湾に面した字川田・塩屋・前原の護岸に造られた銃座がこれまで 115 基確認されています。銃座は、護岸の上面であるコンクリート部分に一辺 20～50 ㎝を凹形に掘り込まれたもので、小銃や機関銃などが構えられるようになっています。現在は、護岸改修工事が行われ徐々に消滅しています。


実測図（うるま市教育委員会作成）

銃座陸側より（うるま市教育委員会撮影）

川田・塩屋の銃座跡位置
（うるま市教育委員会作成）

銃座部分（うるま市教育委員会撮影）

近景　南より
（うるま市教育委員会撮影）

●津覇のトーチカ跡（中城村）

海岸低地にある津覇集落の南東側に位置し、村指定文化財の拝所「津覇のテラ」の敷地内にあります。トーチカはコンクリート製で、平面形が六角形で径３mを測り、銃眼は内陸側の東側に４ヶ所設けられています。中城村教育委員会が試掘調査を行いましたが、このトーチカへの入口は明確になっていません。

津覇のトーチカ跡　略測図

上面（中城村教育委員会撮影）

南西より（中城村教育委員会撮影）

内部（中城村教育委員会撮影）

北西より（中城村教育委員会撮影）

●万座毛（まんざもう）の銃眼跡（南大東村）

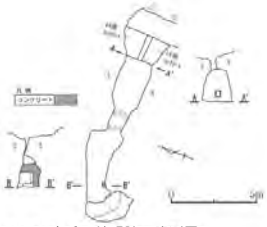
地元で万座毛と呼ばれる南大東島の南東端の海岸絶壁に設けられた銃眼です。岩盤を掘られた高さ１m、長さ 10mの坑道をくぐると、東側を向くコンクリート製の銃眼が設けられた小部屋に至ります。南北大東島では、このような銃眼が海岸一帯に設けられており、当時の陣地要図などの資料も多く残されており、日本軍の水際作戦をうかがい知るために重要な遺跡です。

万座毛の銃眼跡遠景
（中央左寄りに銃眼）

坑道より銃眼を見る

銃眼設置の部屋

銃眼外面


万座毛の銃眼跡　略測図

南地区 20 号陣地（万座毛の銃眼跡に相当）射界鳥瞰図

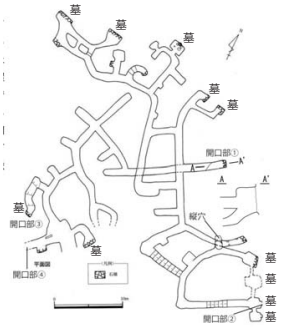
銃眼より海上を臨む

③陣地壕（じんちごう）

自然洞穴を利用したり、地質に合わせてダイナマイトによる発破、削岩機やツルハシなどで壕を掘り、坑道式陣地と称されたものです。陸軍と海軍でおおまかな傾向があり、前者は通路幅が１～２ｍで壁・天井を補強する坑木を入れたものが多く、後者は通路幅が２～３ｍと広く、天井がアーチもしくは台形状、コンクリートを使用することも多く見られます。また、沖縄特有の亀甲墓などの墓室を利用し延長や連結させた陣地壕も特徴的なものです。

●楚辺（そべ）１丁目（城岳）の陣地壕跡（那覇市）

現在は城岳公園の敷地内で、丘陵斜面に多く造られていた掘り込み墓を利用した陣地壕です。墓口を出入口として、複雑に張り巡らされた通路は総延長約300ｍを測ります。部分的に２階構造となっていたり、階段も多く見られるなど複雑な構造で、長期的な戦闘に備えたものと考えられます。



楚辺１丁目（城岳）の陣地壕跡　略測図
（沖埋文 2004 を一部変更）

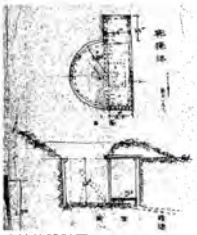
●座波（ざは）迫撃砲陣地跡（糸満市）

座波集落北側の東西に延びる丘陵に、迫撃砲掩体３基、人工壕２基が確認されています。迫撃砲掩体とは、出入口を設けた一辺３～４ｍの略方形の土坑（穴）に長さ６～７ｍの坑道が設けられたものです。当時の軍史料を参考にすると、土坑に迫撃砲を配し、坑道は弾薬を一時保管したり、砲兵が一時退避した場所と考えられます。

砲掩体３　北より

砲掩体３坑道開口部　西より

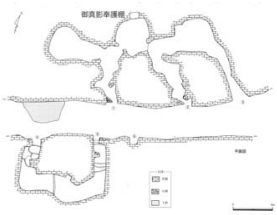
砲掩体３　坑道内部


砲掩体設計図（JACAR アジア歴史資料センター）Ref.C11110191500(29 画像目)、「大城森陣地作業計画独立迫撃砲第９中隊　陣中日誌、昭和 19 年 10 月 1 日～ 19 年 12 月 31 日」防衛省防衛研究所蔵より）

座波迫撃砲陣地跡　遺構分布図

●黄金（こがね）山の陸軍本部壕跡（北大東村）

北大東島の北西に位置する黄金山と称された丘陵の中腹にある人工的に掘削された切通し（ワイトゥイ）の両際に構築されたものです。このうち、北側に設けれた壕は、出入口を３か所を設けた平面がＥ字形のもので、中央の部屋にはコンクリートで丁寧に造られた棚があり、ここに御真影が保管されていたようです。


黄金山の陸軍本部壕跡群　略測図
（沖埋文 2004 より）

御真影奉護棚

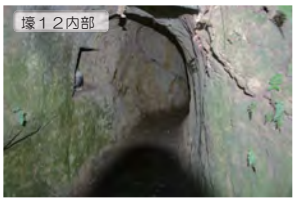
●ことぶき山の陣地壕跡（那覇市）

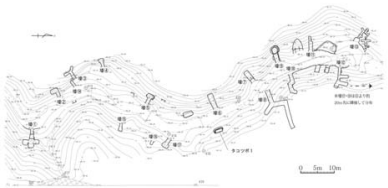
現在は田原公園の敷地内にあたる従来はカテーラムイと呼ばれていた丘陵に掘り込まれたものです。当時、高所からこの丘陵を見ると「寿」の字に見えたことから、日本軍が名づけたものとされています。海軍の巌（いわお）部隊が構築使用したもので、コンクリートを用いたアーチ形の天井があるなど、海軍の壕として特徴的なものです。現在は、安全のため立ち入ることが出来ません。

ことぶき山の陣地壕跡　コンクリート部分のアーチ型天井

●北山（にしやま）の陣地壕跡群（渡嘉敷村）

渡嘉敷集落より北約 1.5ｋｍの北山（にしやま）と呼ばれる標高 200ｍに近い山間部中腹に現在 22 基の人工壕が確認されています。多くは、長さ数ｍ前後の貫通しない壕ですが、小部屋が幾つか設けられた２か所の出入口を有するものや、全体がカマドとして煙道が設けられた壕があります。米軍が上陸した３月 27 日以降に、渡嘉敷島に配備されていた海上挺進第３戦隊が造ったものとされ、長期戦に備えたものと思われます。なお、本壕跡群より北側の山間部には、軍により住民が移動させられ「集団自決」が行われた場所があります。現在は、国立沖縄青少年交流の家に隣接しており、この施設内より出入りでき、また渡嘉敷村により遊歩道が設けられており見学が可能です。




北山の陣地壕跡群 遺構分布図（渡嘉敷村教育委員会提供地形図をもとに作成）

位置図

④監視所

丘陵頂部など見晴らしが良い位置に立地し、監視窓を有するものです。

●亀池港北東の海軍監視所跡（南大東村）

南大東島の南端、その外周を巡る断崖の頂部に位置し、当時の要図にも記載されたコンクリート製の海軍監視所跡です。天井部が六角形を呈し、内法径２mの部屋が監視場所となり、四周を監視できるようになっています。また、監視部屋に至る階段部の壁面には、「昭和 20 年５月１日建立」と構築した兵士の名前が刻まれた碑銘があります。

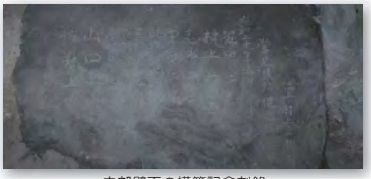
遠　景

内部階段より出入口

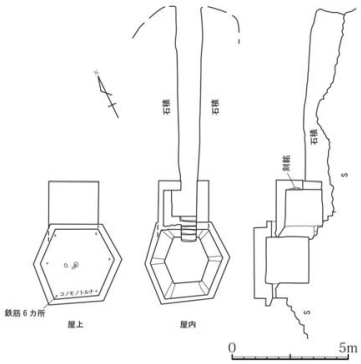
南側監視窓

天井全景　北より

天井部側面外観


内部壁面の構築記念刻銘

内部壁面の構築記念刻銘



亀池港北東の海軍監視所跡　略測図

天井部の刻銘「コノモノトルナ」

⑤戦闘指揮所

一定の形態ではありませんが、丘陵頂部や先端部に位置し、周辺陣地の中心的な位置であった戦闘時の拠点と考えられるものです。

●161.8 高地陣地の戦闘指揮所跡（中城村指定文化財）

現在の沖縄消防学校北側にある、当時日本軍より 161.8 高地と呼ばれた陣地の拠点とされた戦闘指揮所跡です。戦闘指揮所跡は、岩盤に礫とコンクリートにより造られた４ヶ所の窓をもつトーチカと、その下層にある地下壕で構成されています。本陣地では、1945（昭和 20）年４月５～７日にかけて日米間で激戦が行われ、米軍側は「ピナクルロック」と呼んでいました。

161.8 高地陣地のトーチカと本部壕（中城村教育委員会撮影）

出入口

出入口より内部（中城村教育委員会撮影）

161.8 高地陣地の戦闘指揮所跡　略測図

米軍作成 161.8 高地俯瞰図（「Intelligence monograph」より）

⑥通信所

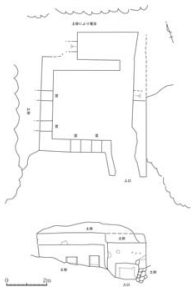
コンクリート製の方形構築物のためトーチカと称されることが多かったものですが、窓は大きく見通しが良くない場所に造られたので、資料から通信所として考えられるものです。

●弁ヶ嶽の通信所跡（那覇市）

弁ヶ嶽は、第 32 軍司令部のあった首里城から東約１㎞に位置する丘陵にあり、標高 167.5mと周辺で最も高所で、また首里王府の重要な祭祀場でした。厚さ 60 ㎝のコンクリート製構築物で、６か所の窓があり、銃眼というよりも通常の窓と考えられます。首里の司令部壕とほぼ同時期の 1944（昭和 19）年 12 月１日に、弁ヶ嶽に通信所の構築が始まったとされ、司令部に関する通信所の一つと考えられます。

弁ヶ嶽の通信所跡　近景

内部天井の鉄筋部分


弁ヶ嶽の通信所跡　略測図
（前回分布調査時作成）

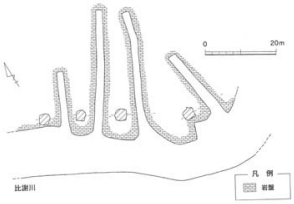
（4）特攻艇秘匿壕（とっこうていひとくごう） 確認されている遺跡…単体 20 ヶ所

陸海軍による小型船舶による特攻作戦に用いた特攻艇を秘匿する壕です。全長 10～20 m、幅２～４m、高さ２～３mの直線的な壕が多く、一定の間隔をあけて数基構築されるものもあります。沖縄戦の特徴的な壕で、本土各地でもその決戦に備えて多く造られました。

●比謝川（ひじゃ）沿いの特攻艇秘匿壕跡群（読谷村）

比謝川河口に面した北岸に構築されたもので、現在６基確認されています。これらは、幅・高さ２mで、直線的に掘削され、長さは 15～30mの間です。海上挺進基地第 29 大隊が 1944（昭和 19）年 12 月から造ったもので、海上挺進第 29 戦隊の一部が翌年２月 17 日に配備され、米軍本島上陸直前の３月 29 日に米軍艦船へ攻撃したようです。

比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群　近景



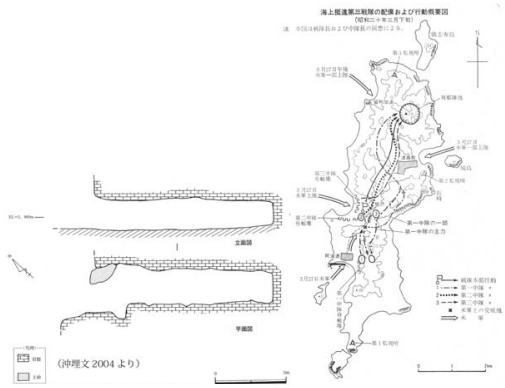
比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群　略測図（沖埋文2002より）

遠　景

内　部

●渡嘉志久（とかしく）海岸の特攻艇秘匿壕跡群（渡嘉敷村指定文化財）

現在渡嘉志久ビーチとなっている海岸後方の丘陵麓の千枚岩質の岩盤に掘り込んで構築されたもので、現在１基のみが確認されています。幅３m、高さ 2.1m、長さ 12mの人工壕となっており、海まではレールが敷かれていたとのことです。1945（昭和 20）年３月 25 日には慶良間諸島に米軍艦艇が侵入しましたが、配備されていた海上挺進第３戦隊への出撃命令は下されず３月 27 日には、同部隊は長期戦を準備するために北山の陣地に移動しました。



渡嘉志久海岸の特攻艇秘匿壕跡　略測図　　渡嘉敷島の陣地要図（防衛庁1968より）

渡嘉志久海岸の特攻艇秘匿壕跡　遠景

壕内部

（5）学徒隊壕 確認されている遺跡…単体３ヶ所

日中戦争ごろから、沖縄でも学生（学徒）の勤労動員は始まっており、米軍の攻撃が始まった 1945（昭和 20）年３月 23 日頃に、訓練を受けた男子学生は各学校で結成された鉄血勤皇隊などへ、女子学生は主に看護補助要員として沖縄陸軍病院や各地の野戦病院などに配備されました。学徒隊壕としたのは、男子学生や教職員が構築もしくは避難した壕です。

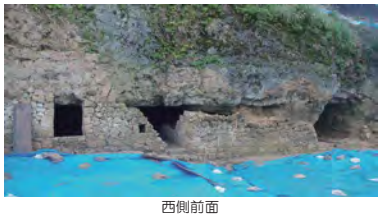
●留魂壕（りゅうこん）跡（那覇市）

首里城内の物見台である東のアザナの城壁の下に掘削された壕跡です。沖縄師範学校男子部の上級生や教職員によって、1944（昭和 19）年半ばごろには掘削が始まり、翌年３月中旬に完成したようです。本来の留魂壕の出入口は３か所と考えられ、直線的な坑道が縦横に繋がっており、総延長 130mを測ります。最も東側の坑道は、３月下旬に沖縄新報社が利用し新聞発行を行っていたため新聞社壕とも呼ばれ、この出入口付近からは多数のアルミもしくはジュラルミン製の活字が出土しております。また、西側には自然洞穴があり内部は丁寧に石敷きが施された場所があり、首里第１国民学校・県立第１中学校・師範学校の御真影が一時的に保管されたとのことです。

留魂壕跡と首里城の東のアザナ付近の城壁　北東より

留魂壕跡　洞穴内の石敷

西端壕口の通路


西側前面

新聞社壕の壕口

新聞社壕の壕口前面付近で出土した活字

留魂壕跡　略測図

留魂壕跡　壕口前面の石積

壕内の工具痕

（6）病院壕 （確認されている遺跡…単体 13 ヶ所、複合 3 ヶ所）

1944（昭和 19）年の 10・10 空襲を契機に、これまで地上にあった病院施設が地下壕に移され、沖縄陸軍病院は南風原に、各師団等の野戦病院壕も各地に造られました。1945 年 4 月以降の戦況悪化に伴い、本島南部の壕に分室が造られたり、第 32 軍が南部へ撤退した 5 月後半以降には、沖縄陸軍病院も本部、第 1 ～ 3 外科に分かれて喜屋武半島の壕に分散していきました。

●沖縄陸軍病院南風原壕跡群（南風原町指定文化財）

黄金森と通称される軟質の泥岩層の丘陵全体に構築された人工壕群です。沖縄陸軍病院は、1944（昭和 19）年9月には、非常時に備えて黄金森一帯の丘陵に病院壕の構築を始めました。10・10 空襲を契機に、病院壕に近接する南風原国民学校に病院機能が全て移動することになり、米軍の攻撃が始まった翌年3月末には壕を利用することになりました。病院壕は 30 基ほどあったとされ、高さ・幅が 1.8 ～ 2.0m、長さ 10 ～ 70mで、各壕を結ぶように横方向の坑道も見られます。この壕では、外傷患者の手術は麻酔無しで患部切断がされることが大半で、南部撤退に際して重症患者には青酸カリ入りのミルクが飲まされたりしたという多くの証言が残されています。南風原町教育委員会では第2外科として利用された 20 号壕の発掘調査を行い、その成果を元に公開活用がされています。

沖縄陸軍病院南風原壕跡群　飯あげの道

整備された20号壕の出口

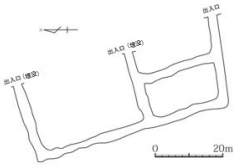
見学者への説明状況

遺物展示状況

●第 62 師団野戦病院棚原分室壕跡（西原町）

現在沖縄キリスト教学院大学が建つ丘陵北側斜面の軟質の泥岩層に掘り込んだ人工壕です。第 62 師団野戦病院棚原分室として、1944（昭和 19）年９月から構築が始まり、翌年２月から解散命令が出される５月初めまで利用され、西原村出身の婦女子多数が補助看護婦として召集されたそうです。壕は、本来は出入口が３か所があり平面Ｅ字状で、総延長 150mを測ります。壕の壁面や天井は坑木で補強された痕が残っています。

第62師団野戦病院棚原分室跡　遠景



第62師団野戦病院棚原分室跡　略測図
（張本文昭氏作成図をトレース）

壕内部

坑木残存状況

（7）官公庁壕 （確認されている遺跡…単体 9 ヶ所、複合 4 ヶ所）

県庁や市町村役場等の官公庁では、10・10 空襲などを契機に空襲を書類保管や職員の避難などを目的として自然洞穴の利用したり、壕の構築を行いました。

●旧西原村役場壕跡（西原町）

現在は西原町学校給食共同調理場である当時の西原村役場に隣接する丘陵に掘られた人工壕です。1944（昭和 19）年６月頃に役場が人夫を雇い、書類保管のために構築されたこと、毎朝出勤してこの壕から書類を持ち出し役場で事務を行い夕方再度補完するといったという証言があります。かつて土砂採取工事で一部削り取られており、現状では２か所の壕口に約 50 ㎡の部屋が見られます。部屋内の壁面には国旗が刻まれており、あまり例を見ません。西原町教育委員会は 1985（昭和 60）年に、県内で初めて本格的な戦争遺跡の発掘調査を行っています。その調査では、金庫の扉が出土しており、書類保管のために掘られたという証言を裏付けることになりました。

旧西原村役場壕跡　全景（西原町教育委員会撮影）

内部　南より（西原町教育委員会撮影）

旧西原村役場壕跡
実測図
（西原町1996 より）

国旗が刻まれた壁面

●シッポウジヌガマ（県庁・警察部壕跡）（那覇市）

現在の識名霊園の一角である台地縁辺にある自然洞穴を利用し、人工的な坑道や部屋を設けた壕です。壕は約 200 ㎡の楕円形の自然洞穴の部分から、南に坑道が約 40m延び、幾つかの部屋状の凹みや水溜などが確認されています。県庁・警察部の避難壕として、米軍上陸以前から構築されていた壕ですが、島田知事らが移動したのは、1945（昭和 20）年4月 25 日とされます。この壕内では、知事や警察部長がいた部屋の他、各課の位置が決められていたとのことです。知事らは日本軍が南部撤退が決定された後の5月 25 日に本壕を後にして、その後は轟の壕（糸満市）などを転々と移動しました。

カマド跡

シッポウジヌガマ　自然洞穴部分

シッポウジヌガマ（県庁・警察部壕跡）実測図
（那覇市教育委員会作成図を使用し作成）

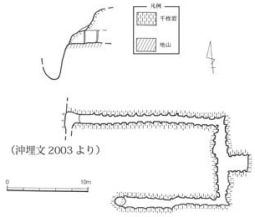
（８）御真影奉護壕（確認されている遺跡…単体４ヶ所、複合１ヶ所）

10・10空襲により、県は御真影奉護のため各地の学校に壕を造らせましたが、1945（昭和20）年１月には名護市大湿帯の御真影奉護壕に移動させました。なお、宮古や八重山でもそれぞれ御真影奉護壕を造り、管轄下の学校のものが集められ保管されました。

●大湿帯の御真影奉護壕跡（名護市）

県有林である源河の山間部の標高約120の丘陵斜面に掘られた人工壕です。壕の全長は40mで、壕口から直線的に伸び平面コ字状となっており、その中央部に約２×３mの部屋が設けられています。おそらく、この部屋に御真影が保管されたものと思われます。同様の部屋は、宮古島市野原の御真影奉護壕でも見られます。

大湿帯の御真影奉護壕跡　遠景



大湿帯の御真影奉護壕跡　略測図（沖埋文2003 より）

壕内部

中央部奥室

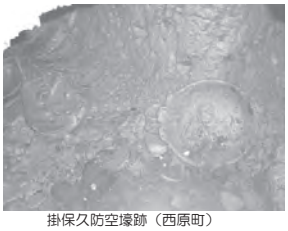
（９）住民避難地（確認されている遺跡…単体407ヶ所（※現在408ヶ所）、複合38ヶ所）

沖縄戦において、住民は10・10空襲以降に屋敷などの防空壕や近くの自然洞穴に、空襲警報の際などに一時的に避難するようになりました。自宅から離れて本格的な避難生活は、米軍の上陸が迫った1945（昭和20）年３月下旬以降に始まりました。これらの住民避難地では、日本兵によるスパイ嫌疑や食料略奪のため住民への脅迫・虐殺などが行われたり、地元召集の防衛隊員などから手渡された手りゅう弾などによって住民が命を絶つという「集団自決」などが起こりました。住民避難地の形態を、防空壕、自然洞穴、山間部の大きく３つで捉えることができます。

①防空壕

空襲の被害より避難するために地中に掘る穴や構築物のことで、全国的に造られています。沖縄県においては、その多くは10・10空襲がきっかけとなって造られたようです。屋敷地内や集落から若干離れた丘陵部に造られたものがあります。現存しているものは、丘陵で見られるもので、通路の幅・高さが１m前後で、壕口が１ヶ所で奥が部屋となったものや、２つもしくは複数の壕口が連結したものなどがあります。

現存していませんが、西原町教育委員会と当センターが2005（平成17）年度に発掘調査を行った掛保久防空壕は、集落内に位置しており、平面がL字形の人工壕で多くの陶磁器や鉄鍋、この場所で亡くなったと思われる人骨１体が確認されています。


掛保久防空壕跡（西原町）

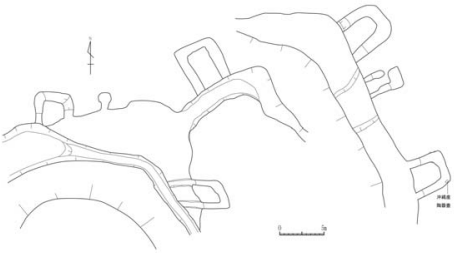
掛保久防空壕跡　略測図
（「沖縄埋文研究5」より）

●根路銘の防空壕跡群（大宜味村）

根路銘・大宜味の集落より約１㎞の山間部の標高約120～130mあたりの谷部に位置しています。壕口が17か所確認されており、そのうちの多くは２つの壕口がコ字形に繋がったものでその長さは８～10mです。壕は住民によって掘られ、米軍上陸後には多くの人々が避難していたとのことです。1945（昭和20）年４月中旬には、更に山深く逃げた人々もあり、逃げ遅れた老人らには米兵によって殺害された人もいるようです。この大宜味村を含め、北部地域で山中に逃げた人々の多くは、６月中旬以降に下山し収容所に送られました。

根路銘の防空壕跡群

壕口付近の壺散布状況


根路銘の防空壕跡群　略測図

●愛楽園の防空壕跡群（名護市）

屋我地島の北東には、現在はハンセン氏病患者の療養施設である国立療養所沖縄愛楽園がありますが、戦時中は国頭愛楽園としてハンセン氏（らい）病患者を隔離していた施設がありました。この敷地内の南北に伸びる丘陵斜面には、現在では約 50 基の壕口があります。これらの壕は、1944（昭和 19）年に、園長の早田皓が入園者や職員の避難壕として計画し、入園者自身に掘削させたもので、早田壕とも呼ばれています。愛楽園は、当時珍しかった数基のコンクリート建造物が規格的に配置されており、軍事施設と見間違えたのか、米軍機より多数の銃弾を受けていますが、これによる被害者はなかったようです。しかし、入園者は厳しい壕生活で、病気や栄養失調で 241 名の死者があったとのことです。

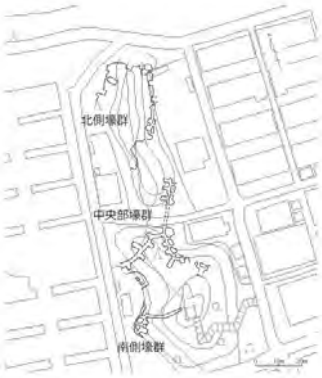
壕は複数が連結したものが多く、総延長 60mの坑道に 10 以上の小部屋が取りつくものも見られます。坑道は幅・高さが約 1.5～2mと、他の防空壕より規模が大きく、軍の指導や協力があった可能性も想定されます。

中央部壕群　通路

中央部壕群　カマド跡

南側壕群　通路と壁面の灯り取り

愛楽園防空壕跡群
中央部壕群・南側壕群　略測図



愛楽園の防空壕（早田壕）跡群 壕分布図

愛楽園付近の米軍1944年9月29日撮影　空中写真
（国土地理院ホームページより）

中央部壕群

北側壕群

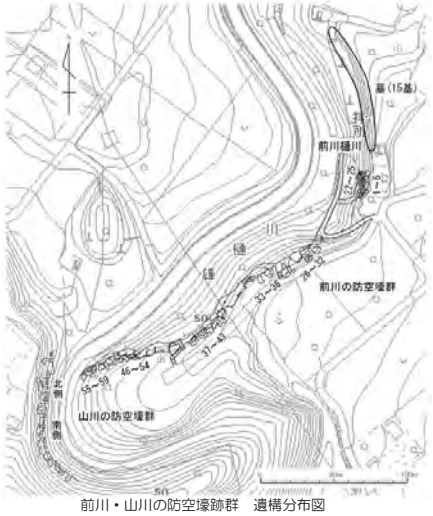
壁面の鉄筋

壁面の鉄釘

●前川・山川の防空壕跡群（南城市・八重瀬町）

雄樋川上流域の両岸斜面に掘られた防空壕跡群で、南岸の前川には 60 余基、北岸の山川には 20 基の壕口が見られます。前川集落の住民は、10・10 空襲以降に本壕跡群を含む雄樋川沿いに親族ら２・３世帯共同で防空壕を構築しました。米軍上陸直前には、この壕に避難した住民もいましたが、軍の命令によりここから別の場所に行かされたそうです。しかし、４月下旬以降に再度戻ってきた住民もおり、その後元軍人などの自爆死があり 20 名余の死者が本壕であったとのことです。山川でも、軍による住民の追い出しがあったようです。

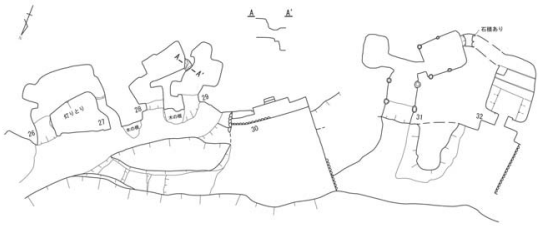
壕の特徴としては、壕の高さは１m程度で、２つもしくは複数の壕口が内部で連結されたものが多く、小部屋や明り取りの凹みや棚などが設けられています。ただ、壕の高さが 1.5m以上あるものや、壁や天井に坑木を設置した痕が見られる壕もあり、一部軍が構築・利用した可能性も考えられます。



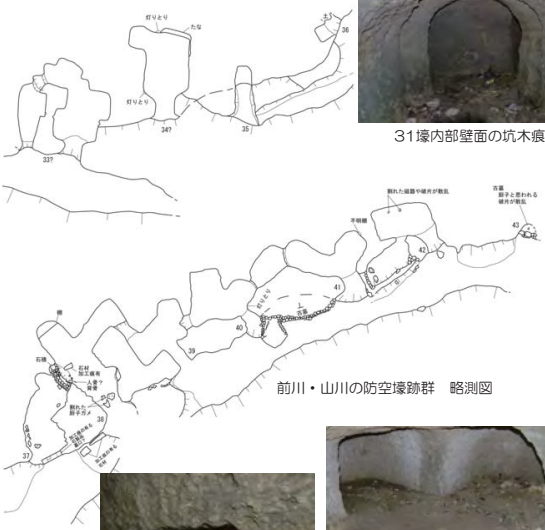
前川・山川の防空壕跡群　遺構分布図

前川の防空壕跡群　壕１～６・22～25近景

壕１～６と階段



31壕内部壁面の坑木痕


前川・山川の防空壕跡群　略測図

壕６の棚と遺物散布状況

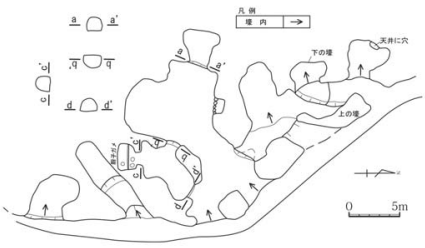
壕５・６の小部屋

②自然洞穴

沖縄県では多くの地域が隆起サンゴ礁で形成されており、空隙の多い石灰岩が基盤となって、特に沖縄本島中南部や各離島では多くの自然洞穴（方言名でガマ・アブなど）があります。これらは、その規模が長大なため当初は軍による陣地として利用されていたところも多いですが、本島中南部では部隊が移動した後に住民が避難し、その後に軍が戻るなど軍民が多数混在するような状況が生まれ、その中で脅迫・虐殺・「集団自決」などが起こったとされます。

●アハシャガマ（伊江村）

伊江島の北東にある段丘斜面の自然洞穴で、部分的に掘り広げたところや墓として利用されたところも見られます。壕口は７つあり、一番広い空間は約 100 ㎡ですが、全体としては 200 ㎡ほどしかありません。米軍上陸以前に、住民や現地召集の防衛隊員が避難していましたが、米軍上陸後の 1945（昭和 20）年４月 22 日ごろに、砲弾やガス攻撃を受け死者が出ました。その後、防衛隊員が爆雷を爆発させ、住民を含めた 100 名以上がなくなった「集団自決」が起こりました。



アハシャガマ　略測図

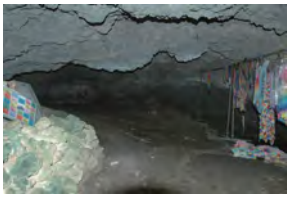
アハシャガマ　壕口

複層構造の壕内部

●チビチリガマ（読谷村）

波平集落の西側の谷にあるドリーネ状に窪んだ自然洞穴で、南北２か所の洞穴があります。10・10 空襲以後に、波平の住民はチビチリガマに空襲警報時などにその都度避難していたそうです。米軍上陸直前の 1945（昭和 20）年３月末より、他所へ疎開しなかった住民が避難しました。その後、南側の洞穴で米軍の投降の呼びかけに反撃したものがいたり、自決についての言い争いが起き、子供の殺害や看護婦が親族に毒薬を注射したり、火をつけたり、83 名の人々が亡くなる「集団自決」が起こりました。一方、北側の洞穴に避難した人々は米軍により救出されたようです。

チビチリガマ


壕口付近

●チンガーガマ（宜野湾市）

我如古集落の地下には長さ約 170mの自然洞穴があり、集落内にはこれと連結している井戸が５カ所見られます。このチンガーガマに避難していた人々は、５月 14 日に米軍により救出されました。

チンガーガマ　井戸入口

●轟（とどろき）の壕跡（糸満市）

伊敷集落より南西方向約 500mに位置するドリーネ状の長さ１㎞以上の自然洞穴です。首里にいた島田知事ら県庁職員らは、６月４・５日に本壕跡に避難してきたが、既に避難民が 500 ～ 600 名いたそうです。知事は 16 日にはこの壕を出る際に、住民に友軍と行動をともにせず米軍に投降せよといった証言があります。同じころに、日本兵の一団も見られ、環境が良い場所を占拠し、住民への子殺しや食糧強奪もあったそうです。住民たちは、６月 24・25 日に米軍からの勧告を受け、集団投降しました。

轟の壕跡　壕口

壕内部　拝所

西側広場への通路

西側広場付近

③山間部

本島北部や渡嘉敷島、石垣島などの急峻な山間部があるところでは、山間部に避難した住民もいました。山間部の住民避難地では、掘立小屋やカマドの痕跡などが確認されているところもあります。また、渡嘉敷島のように「集団自決」が起こった事例や、石垣島などではマラリアの蔓延で苦しんだ人々もいます。

●白水の住民避難地跡（石垣市指定文化財<名蔵白水の戦争遺跡群>）

於茂登岳東方の白水地域の標高約 50 ～ 100mの山間部、名蔵川の支流であるシサミズィガーラ沿いに位置します。この場所には、登野城や大川の住民が避難していたという証言があり、カマド跡などが確認されます。ただ、多くのタコツボや塹壕も分布しており、独立自動車第 284 中隊が駐屯していたことから、本来は軍が使用していた場所と考えられます。なお、八重山支庁が造った壕も見られ、そのうちの一つは御真影奉護壕であったとされています。

白水の住民避難地跡　遺構分布図

白水の住民避難地跡　陶磁器散布状況

カマド跡

●石川岳の住民避難地跡（恩納村）

現在は石川少年自然の家にある石川岳散策道沿で、標高約 130mの山麓内を流れる小川沿いに見られます。1945（昭和 20）年3月 23 日の空襲以降に、石川の住民がこの地に避難したとされます。遺構としては、小川沿いの山道に取りつくように、掘り込んで造成された平場が3か所見られます。そのうち平場3は、1.8m×3.5mの空間を造成し、カマド跡と考えられる石組が見られ、避難小屋跡ではないかと考えられます。

石川岳の住民避難地跡　平場１付近

平場３

石川岳の住民避難地跡　略測図

陶磁器散布状況

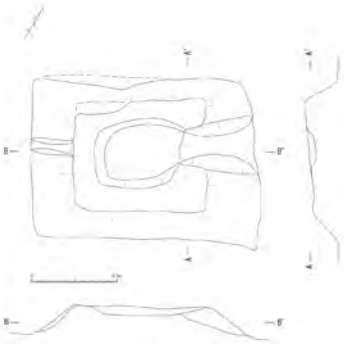
（10）偽陣地（いつわり）（確認されている遺跡…単体１ヶ所）

大砲などに似せて造られたもので、現存していませんが戦車・飛行機などに似せた偽兵器も多く造られたようです。

●真鼻毛（まはなもう）の偽砲台跡（粟国村）

粟国島の最西端の真鼻崎（筆ん岬）を見下ろす台地に位置します。偽大砲を据えたとされる盛土で造られた基礎が残っております。粟国島には、日本軍は配備されておらず、在郷軍人や警防団がカモフラージュのため構築したとされています。

米軍撮影写真の偽戦車（左）・偽飛行機（中）・偽砲台（右）（沖縄県公文書館蔵）


真鼻毛の偽砲台跡　略測図

真鼻毛の偽砲台跡　遠景

近　景

（11）被災痕跡（ひさいこんせき）・破壊痕跡（はかいこんせき）　確認されている遺跡…単体 67 ヶ所

①被災痕跡

確認されている遺跡…単体 63 ヶ所
銃弾や砲爆弾を受けた痕跡が建物や壁、地面などに残存したものです。

●公益質屋跡の弾痕（伊江村指定文化財）

現在の伊江村中央公民館の西側にある1927（昭和２）年に造られた公益質屋に多くの弾痕や破壊された穴が見られます。当時、日本軍の伊江島での拠点であった複郭陣地が、後背する城山が見られることから、米軍との上陸戦で破壊されたものと思われます。

伊江村公益質屋跡の弾痕

●愛楽園の給水タンクの弾痕（名護市）

屋我地島の当時の国頭愛楽園では、多様なコンクリート建造物があったため、かなり集中的に飛行機から機銃が撃ち込まれ、塀や給水タンクに多くの弾痕が残っております。

愛楽園タンクの弾痕

●斎場御嶽（せーふぁーうたき）の爆弾穴（南城市）

世界遺産となっている琉球王府時代の祭祀場である斎場御嶽に見られる径 12 ～ 13mの楕円形、深さ２mの陥没穴で、通常は水が溜まって小池のようになっています。米軍による艦砲や爆撃による爆弾穴と言われております。

②破壊痕跡

確認されている遺跡…単体４ヶ所
日本軍は米軍に利用させないように、自ら飛行場や橋などを破壊しました。現在では、天願橋跡（うるま市）や、億首橋跡（金武町）にその痕跡が見られます。

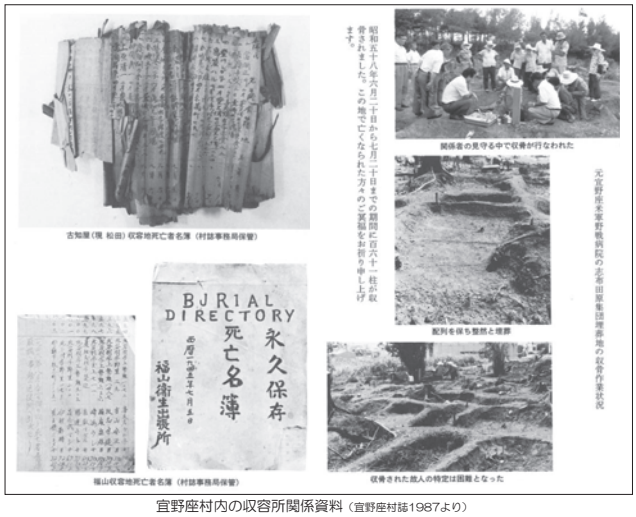
●天願橋跡（うるま市）

●億首橋跡（金武町）

（12）収容所　確認されている遺跡…単体１ヶ所

米軍は、慶良間諸島に上陸した 1945 年３月 26 日に、南西諸島における日本政府の全施政権を停止し米軍政府の管理下におくことを宣言しました（ニミッツ布告）。それにより、沖縄本島の上陸戦を進めながら、各地に収容所も設置していくことになりました。その内、現在の宜野座村域では４月５日から収容所が造られ、様々な施設が見られ非常に大規模なものでした。宜野座村では、村内にあった収容所の共同墓地の埋葬者について遺骨収集を行い、その記録を村指定文化財としています。

現在、明確な収容所跡として確認されているのは、名護市の大浦崎収容所跡のみです。



宜野座村内の収容所関係資料（宜野座村誌1987より）

●大浦崎収容所跡

米軍基地キャンプシュワブ内において、名護市教育委員会の分布調査で、大浦収容所跡とされる範囲で、石積みで区画された平坦地などが確認されています。

聞き取り調査による大浦崎収容所の施設配置図（名護市教育委員会2013より）

大浦崎収容所の様子（今治誌編集委員会1994より）

大浦崎収容所跡遺構分布図
（名護市教育委員会2013より）

戦争遺跡の発掘調査

沖縄県では、1985（昭和 60）年の西原町教育委員会による西原村役場壕の調査を皮切りに、2013（平成 25）年度までに 31 件の戦争遺跡の発掘調査が行われてきました。これらの多くは、開発の事前に行われる調査で、調査が行われないまま破壊されてしまった遺跡も多くあったものと思われます。戦争遺跡を含め、文化財保護法ではその土地の所有者など関係者の協力をもとに、発掘調査を行うこととなります。

教育委員会実施・文化財保護法に基づく発掘調査等開発対応一覧

No	遺跡名	所在地	調査年度	調査種別	調査主体	戦争遺跡
1	西原村役場壕	西原町	昭和60年度	確認調査	西原町教委	○
2	森川陣地壕	西原町	昭和60年度	確認調査	西原町教委	○
3	沖縄陸軍病院南風原壕群	南風原町	平成６～17年度	確認調査	南風原町教委	○
4	津嘉山クボー遺跡（陣地・埋葬人骨）	南風原町	平成12年度	緊急調査	南風原町教委	
5	ワイトゥイの構築壕（東）	糸満市	平成13年度	緊急調査	糸満市教委	○
6	佐敷村役場壕	南城市（旧佐敷町）	平成14・15年度	確認調査	佐敷町教委	○
7	前田・経塚近世墓群の壕	浦添市	平成14～17年度	緊急・確認調査	浦添市教委	
8	稲マタ原近世墓の陣地壕群	浦添市	平成16年度	緊急調査	浦添市教委	
9	宇地泊西原丘陵古墓群のトーチカ	宜野湾市	平成16～20年度	緊急・確認調査	宜野湾市教委	
10	掛保久防空壕	西原町	平成17年度	緊急調査	西原町教委・県埋文	○
11	第32軍司令部津嘉山壕群	南風原町	平成17・18年度	緊急調査	南風原町教委	○
12	津嘉山北地区旧日本軍壕跡	南風原町	平成18・21年度	緊急調査	南風原町教委	○
13	金武の震洋隊秘匿壕	金武町	平成19年度	緊急調査	金武町教委	○
14	大嶺村跡（海軍小禄飛行場跡）	那覇市	平成19～22年度	緊急・確認調査	那覇市教委	
15	兼箇段陣地壕群	うるま市	平成20年度	緊急調査	うるま市教委	○
16	首里久場川壕群	那覇市	平成21年度	緊急調査	那覇市教委	○
17	仲志原壕	南城市	平成21年度	緊急調査	南城市教委	○
18	福山の避難壕	宜野座村	平成21年度	緊急調査	宜野座村教委	○
19	沖縄陸軍病院伊原第一外科壕	糸満市	平成21・25年度	学術調査	琉球大学	○
20	字宇栄原の壕	那覇市	平成22年度	工事立会	那覇市教委	○
21	赤嶺配水池の壕群	那覇市	平成22・23年度	工事立会	那覇市教委	○
22	末吉の山陣地	那覇市	平成23年度	工事立会	那覇市教委	○
23	大浜の特攻艇秘匿壕群	宮古島市	平成23年度	工事立会	宮古島市教委	○
24	長南避難壕群	宮古島市	平成24年度	緊急調査	宮古島市教委	○
25	楚辺１丁目の壕	那覇市	平成24年度	確認調査	那覇市教委	○
26	川田の銃眼（銃座）	うるま市	平成24・25年度	緊急調査	うるま市教委	○
27	旭ヶ丘公園の陣地壕	那覇市	平成25年度	工事立会	那覇市教委	○
28	ウローカの砲台跡	南城市	平成25年度	確認調査	南城市教委	○
29	名嘉地の住民避難壕	豊見城市	平成25年度	緊急調査	豊見城市教委	○
30	加治道の避難壕	宮古島市	平成25年度	緊急調査	宮古島市教委	○
31	西更竹の避難壕	宮古島市	平成25年度	緊急調査	宮古島市教委	○

戦争遺跡の文化財指定

戦争遺跡の文化財指定は、1990（平成２）年の南風原町の沖縄陸軍病院南風原壕群が全国的に初めてのものとされます。沖縄県では、それ以前に指定されたものでも戦争遺跡と考えられるものを含むと、17 件の市町村指定文化財と、１件の国登録記念物があります。現時点では、県による文化財指定はありません。今後、今回の調査及び報告書をもとに、戦争遺跡の文化財指定を含めた保存が進んでいくことが望まれます。

沖縄県内戦争遺跡指定文化財一覧

No	指定年月日	種別	指定名称	所在地
1	昭和52年12月14日	伊江村史跡	公益質屋跡	伊江村字東江上75
2	昭和61年9月25日	石垣市史跡	元海底電線陸揚室(電信屋)	石垣市字崎枝574－1
3	平成2年6月27日	南風原町史跡	南風原陸軍病院壕＜2007年に「沖縄陸軍病院南風原壕」に改称＞	南風原町字喜屋武地内
4	平成9年2月5日	沖縄市史跡	奉安殿(戦争遺跡)	沖縄市知花
5	平成9年2月5日	沖縄市史跡	忠魂碑(戦争遺跡)	沖縄市知花
6	平成16年3月3日	うるま市史跡	新川・クボウグスク周辺の陣地壕群	うるま市勝連津堅
7	平成16年4月15日	宮古島市史跡	海軍特攻艇格納秘匿壕	宮古島市平良字狩俣2569
8	平成17年3月1日	渡嘉敷村史跡	旧日本軍特攻艇秘匿壕	渡嘉敷村字阿波連渡嘉志久原873
9	平成17年11月30日	渡嘉敷村史跡	集団自決跡地	渡嘉敷村字渡嘉敷2760-1
10	平成20年2月7日	読谷村史跡	チビチリガマ	読谷村字波平犬桑江原1135-2、1136-2
11	平成20年11月4日	石垣市歴史資料	旧登野城尋常高等小学校の奉安殿	石垣市字登野城村内290（登野城小学校内）
12	平成21年1月22日	読谷村史跡	掩体壕	読谷村字座喜味2943－1
13	平成21年1月22日	読谷村史跡	忠魂碑	読谷村字座喜味2976－1の一部2943－1の一部
14	平成21年3月30日	石垣市史跡	名蔵白水の戦争遺跡群	石垣市字名蔵ｼｰﾗ原1355-83
15	平成21年11月20日	本部町史跡（戦争遺跡）	本部監視哨跡	本部町字谷茶205
16	平成21年11月20日	本部町歴史資料	旧謝花尋常高等小学校跡　奉安殿	本部町謝花１番地
17	平成26年3月26日	中城村史跡	161.8高地陣地	中城村字北上原195番地
18	平成27年1月26日	国登録記念物（遺跡関係）	平敷屋製糖工場跡	うるま市勝連平敷屋
※1	平成13年10月9日	宜野座村歴史資料	沖縄戦関連宜野座村資料	宜野座字宜野座246

※1　文献資料の有形文化財として指定

沖縄県の戦争遺跡に関する年表

1879 年　明治政府は軍隊と警察官を派遣して琉球藩を廃止し沖縄県設置（琉球処分）

1896 年　首里城に配備されていた熊本鎮台分遣隊が撤退

中城湾海軍需品支庫が建設

鹿児島－沖縄－台湾間の電信建設の為海底線陸揚室・通信所が建設

1898 年　沖縄県に徴兵令施行

1904 年　海上監視のための海軍望楼が建設

大正期から昭和初期にかけて、忠魂碑・奉安殿などの記念碑が多く造られる

1933 年　小禄（那覇市）、平喜名（石垣市）に海軍飛行場が建設

1941 年　中城湾と船浮（西表島）に臨時要塞が建設

陸軍のマレー半島奇襲、陸軍による真珠湾攻撃（12 月 8 日　太平洋戦争開始）

このころ、沖縄県県警が管轄する防空監視哨が県内に 11 カ所建設

1942 年　日本軍はビルマ・香港・東インド・フィリピンなどを占領（1 ～ 5 月）

ミッドウェー海戦、ソロモン諸島で敗戦（7 月～）

1943 年　陸軍による沖縄北（読谷）飛行場、伊江島飛行場などが建設開始（3 月～）

「学徒戦時動員体制確立要綱」の閣議決定（6 月）

大本営による絶対国防圏（※）の設定し、御前会議で承認

※千島・小笠原・マリアナ・カロリン・西ニューギニア・ビルマを防衛ラインとする

1944 年　米軍による日本軍の太平洋の拠点であるトラック諸島を急襲（2 月）

南西諸島防衛のため第 32 軍を創設（3 月 22 日）

マリアナ諸島が米軍による攻撃を受け、サイパンが陥落（6 ～ 8 月）

第 9 ・24・62 師団を沖縄本島、宮古に第 28 師団など第 32 軍増強（7 月～）

フィリピンのレイテ沖、ペリリュー島などで敗戦（10 ～ 12 月）

南西諸島全域で大空襲（10・10 空襲）

第 9 師団が台湾へ抽出され（12 月）、以後第 32 軍の部隊配備が大きく変更

1945 年　米軍はルソン島上陸（1 月）　硫黄島の敗戦（2 ～ 3 月）

米軍による南西諸島への空襲・艦砲が始まり、慶良間諸島へ上陸（3 月 26 日）

以後、米軍政府は南西諸島を管理下におくこと宣言（ニミッツ布告）

米軍の沖縄本島上陸（4 月 1 日）　米軍の津堅島上陸（4 月 10 日）

米軍の本部半島制圧（4 月 16 日）　伊江島の日本軍壊滅（4 月 21 日）

前田高地（浦添市）一帯で日本軍は総攻撃を行い失敗（5 月 3 ～ 5 日）

第 32 軍司令部は本島南部の摩文仁（糸満市）に撤退（5 月 27 ～ 29 日）

海軍沖縄方面根拠地隊が小禄一帯で壊滅（6 月 13 日）

第 32 軍牛島司令官・長参謀長が自決し、組織的戦闘終了（6 月 23 日）

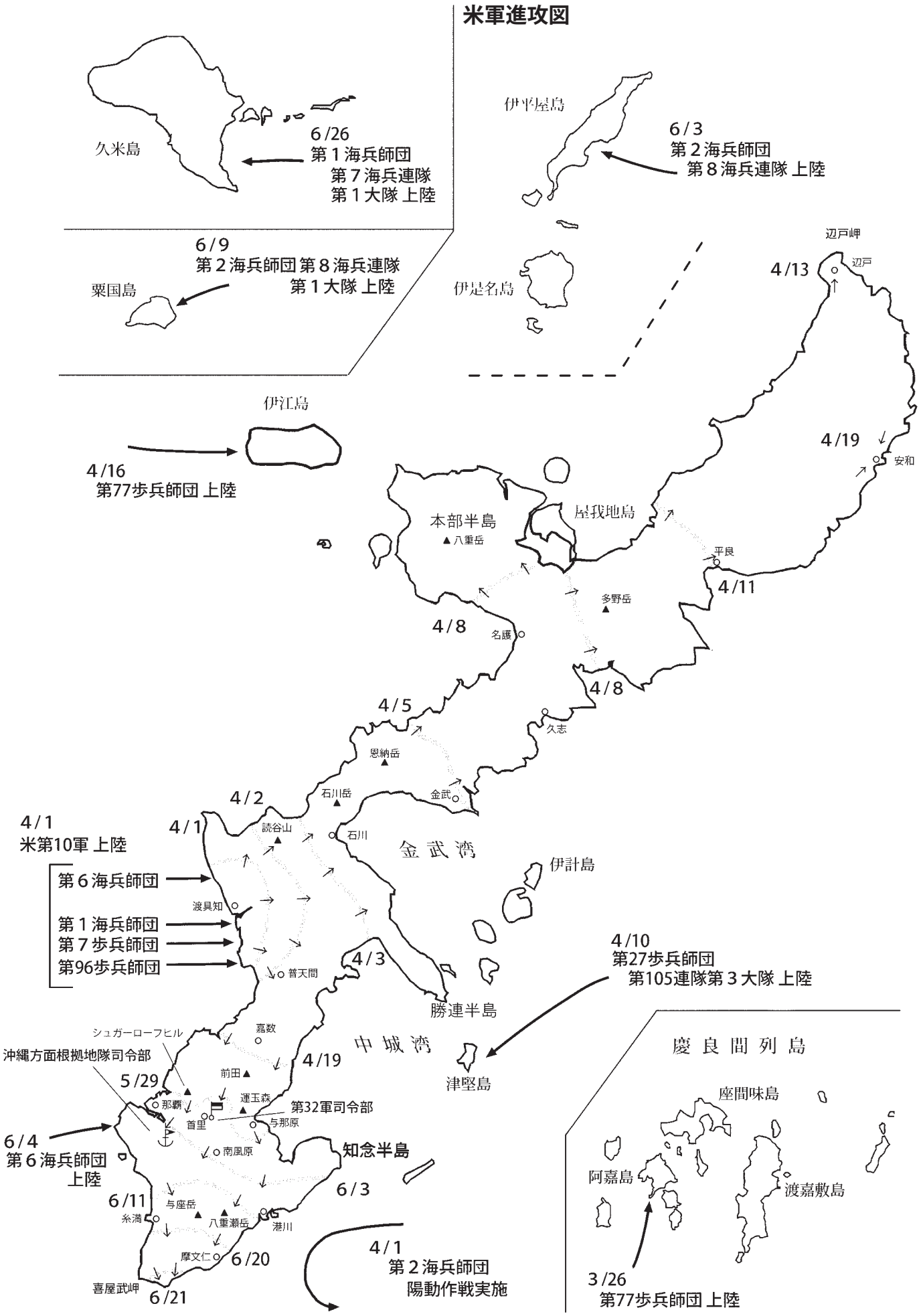
沖縄県立石川高等学校の開校（7 月 30 日）　米軍の本島北部の掃討戦終了（8 月 4 日）

米軍の広島・長崎へ原爆投下（8 月 6 ・ 9 日）

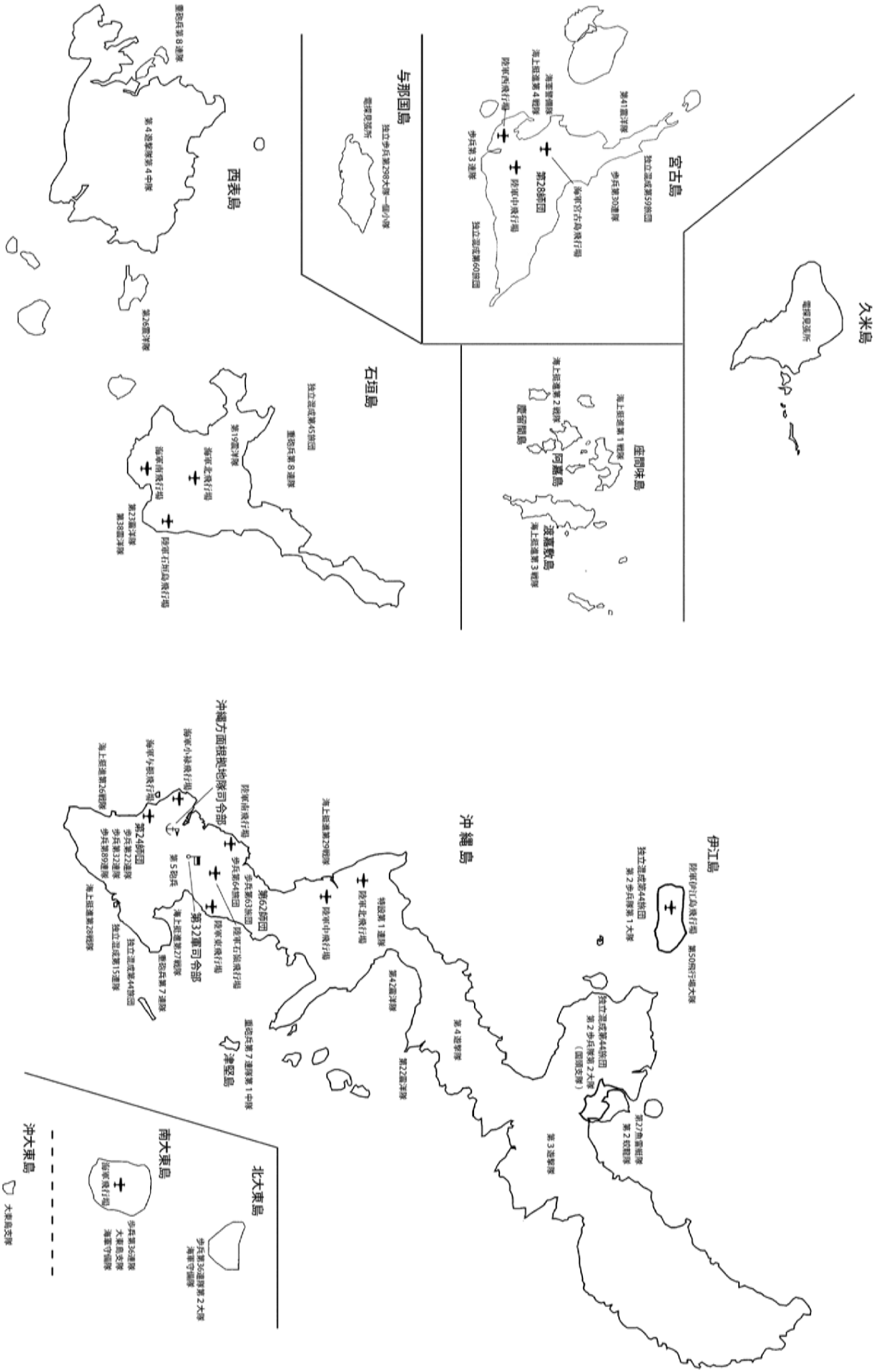
日本政府はポツダム宣言を受諾し、天皇はラジオ放送で戦争終結を発表（8 月 14・15 日）

日本政府は米艦ミズーリ号で降伏文書に調印（9 月 2 日）

第 28 師団納見司令官を南西諸島の日本軍を代表とし、米軍との降伏文書調印（9 月 7 日）


米軍進攻図
久米島
6/26
第１海兵師団
第７海兵連隊
第１大隊 上陸
6/9
第２海兵師団第８海兵連隊
第１大隊 上陸
粟国島
伊平屋島
6/3
第２海兵師団
第８海兵連隊 上陸
伊是名島
辺戸岬
辺戸
4/13
4/19
安和
伊江島
4/16
第77歩兵師団 上陸
本部半島
八重岳
屋我地島
平良
4/11
多野岳
4/8
名護
4/8
久志
4/5
恩納岳
金武
石川岳
4/2
4/1
読谷山
石川
金武湾
4/1
米第10軍 上陸
第６海兵師団
第１海兵師団
第７歩兵師団
第96歩兵師団
渡具知
伊計島
4/3
普天間
4/10
第27歩兵師団
第105連隊第３大隊 上陸
勝連半島
嘉数
シュガーローフヒル
沖縄方面根拠地隊司令部
中城湾
4/19
前田
5/29
那覇
運玉森
第32軍司令部
首里
与那原
津堅島
6/4
第６海兵師団
上陸
南風原
知念半島
6/3
6/11
与座岳
糸満
八重瀬岳
港川
摩文仁
6/20
喜屋武岬
6/21
4/1
第２海兵師団
陽動作戦実施
慶良間列島
座間味島
阿嘉島
渡嘉敷島
3/26
第77歩兵師団 上陸

第３２軍主要部隊配置図（1945 年３月末の段階）

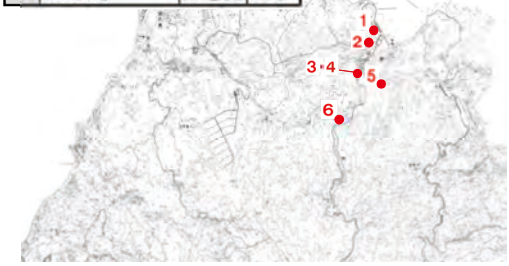


戦争遺跡分布図(1)

国頭村・大宜味村・東村・伊江村

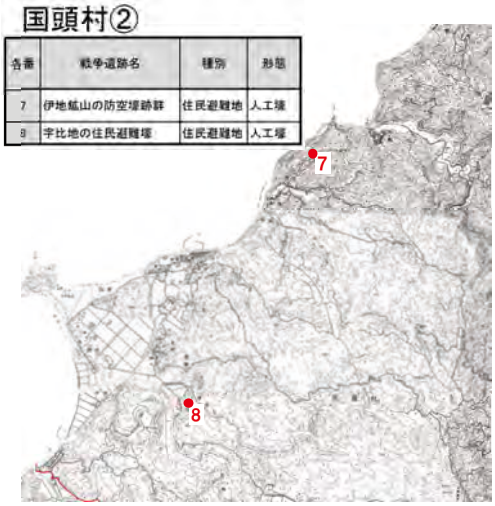
国頭村①

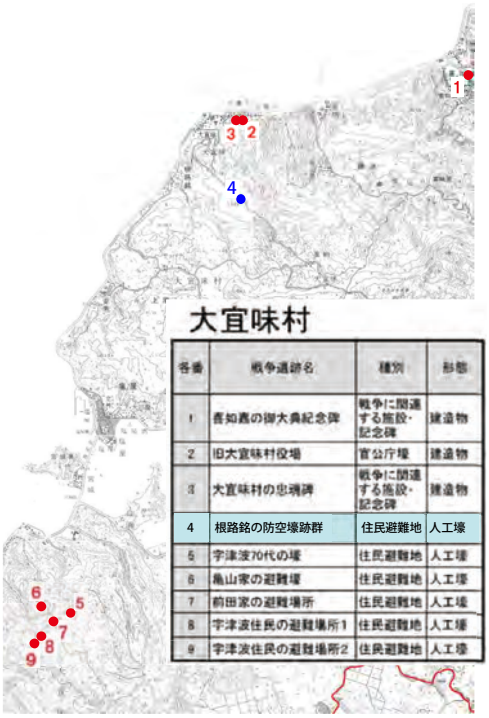
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	シヌグスクの下の壕	住民避難地	人工壕
2	ヒナクブの交通壕	陣地	構築物
3	乃木神社鳥居	その他	建造物
4	宇奥の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	奥の避難壕	住民避難地	人工壕
6	カジマナの壕	住民避難地	人工壕



国頭村②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
7	伊地嵐山の防空壕跡群	住民避難地	人工壕
8	宇比地の住民避難壕	住民避難地	人工壕





大宜味村

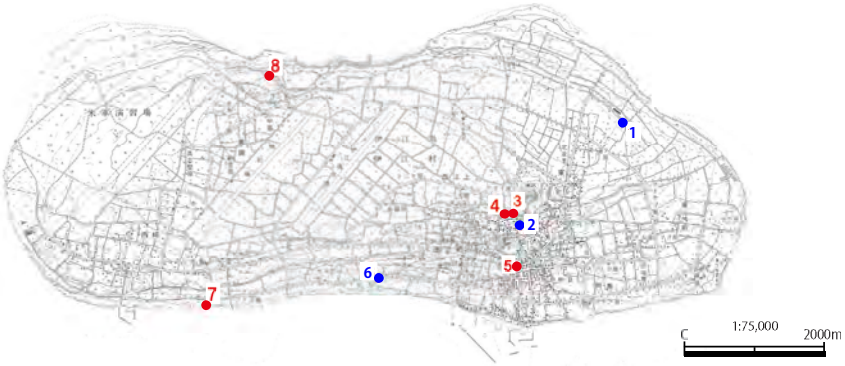
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	喜如嘉の御大典記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
2	旧大宜味村役場	官公庁壕	建造物
3	大宜味村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
4	根路銘の防空壕跡群	住民避難地	人工壕
5	宇津波70代の壕	住民避難地	人工壕
6	亀山家の避難壕	住民避難地	人工壕
7	前田家の避難場所	住民避難地	人工壕
8	宇津波住民の避難場所1	住民避難地	人工壕
9	宇津波住民の避難場所2	住民避難地	人工壕

東村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	川田の住民避難壕	住民避難地	人工壕
2	平良の塀の弾痕	被災痕跡	建造物
3	慶佐次カミガーの壕群	住民避難地	人工壕

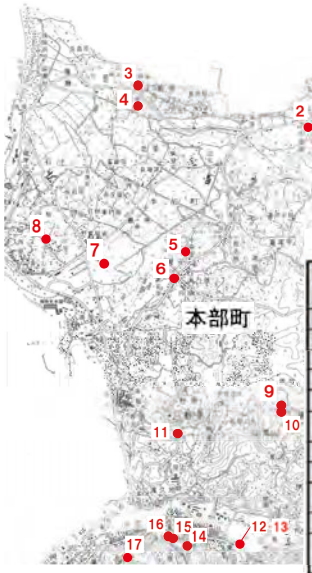
伊江村

各番	戦争遺跡名	種別(報告書)	形態(報告書)
1	アハシャガマ	住民避難地	自然洞穴
2	公益質屋跡の弾痕	被災痕跡	建造物
3	山ゲシの砲台跡(山ゲシの陣地壕1)	陣地	構築物
4	山ゲシの陣地壕2	陣地	人工壕
5	川平の陣地跡(独立混成第44旅団第2歩兵隊第3中隊第2小隊壕)	陣地	人工壕
6	ミンカザント(紀元2千六百年記念)	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
7	ニィヤティヤガマ	住民避難地	自然洞穴
8	第502特設警備工兵隊出撃の地	陣地	人工壕(一部自然洞穴)



戦争遺跡分布図(2)

今帰仁村・名護市・本部町・宜野座村



今帰仁村①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	ティラガマ	住民避難地	自然洞穴
2	源為朝公上陸記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
3	運天隧道脇の壕	住民避難地＋陣地	人工壕
4	上運天2班の壕(安里組の壕)	住民避難地	人工壕
5	根神屋の壕	住民避難地	人工壕

今帰仁村②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
6	蛟龍エンジン調整壕	陣地	人工壕
7	白石部隊防空壕	陣地	人工壕
8	第27魚雷艇隊秘匿壕	陣地	人工壕
9	渡喜仁の陣地壕跡群	陣地	人工壕
10	ウシヌスルガマ	陣地	自然洞穴
11	崎山の住民避難壕(港原の住民避難壕)	住民避難地	人工壕
12	謝名の避難用通路	住民避難地	構築物
13	与那嶺の海食洞	住民避難地	自然洞穴
14	与那嶺の交通壕(シマ山の交通壕)	陣地	構築物
15	字諸志の住民避難壕	住民避難地	人工壕
16	今帰仁村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
17	今帰仁グスクの整壕跡	陣地	整壕

名護市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
3	愛楽園の防空壕（早田壕）跡群	住民避難地	人工壕
4	愛楽園給水タンクの弾痕	被災痕跡	建造物
5	愛楽園寮の弾痕	被災痕跡	建造物
6	済井出の住民避難壕	住民避難地	人工壕
7	熱田大湯 皇太子殿下御誕生記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
8	仲尾次の住民避難壕	住民避難地	人工壕
9	旧名護町の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
10	振慶名の陣地壕	陣地	人工壕
11	武田薬草園乾燥場の弾痕	被災痕跡	建造物

本部町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	ジャニ浜の避難壕	住民避難地	自然洞穴
2	具志堅の陣地壕	陣地	人工壕
3	イリンゴウ	住民避難地	自然洞穴
4	アブシトウ	住民避難地	自然洞穴
5	中頭の防空壕	住民避難地	人工壕
6	旧謝花小学校の奉安殿	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
7	桃原の飛行場跡	飛行場	構築物
8	ウーミィアブ	住民避難地	自然洞穴
9	山里の弾薬保存壕	陣地	人工壕
10	海軍砲台	陣地	構築物
11	テンヌチヂガマ	住民避難地	自然洞穴
12	旧本部村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
13	戦没軍人氏名の碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
14	東の住民避難壕	住民避難地	人工壕
15	渡久地の避難壕	住民避難地	人工壕
16	渡久地警察署の壕	官公庁壕	人工壕
17	本部防空監視哨跡	防空監視哨	構築物
18	クンリ浜の自然壕	住民避難地	自然洞穴
19	御大礎記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
20	真部山の日本軍陣地壕	陣地	人工壕
21	清末隊の陣地壕	陣地	人工壕
22	国頭支隊野戦病院跡(八重岳野戦病院跡)	病院壕	構築物
23	崎本部の御大典紀念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
24	崎本部42番地の壕	住民避難地	人工壕
25	鍵堅の壕跡	陣地	人工壕

名護市②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
12	御大典紀念道路碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
13	皇太子殿下御誕生記念改築の碑(安和神社の碑)	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

名護市③

各番	戦争遺跡名	種別	形態
14	明治山金林二十周年記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
15	許田区長の壕	住民避難地	人工壕
16	イシマチの炭焼ガマ跡	住民避難地	その他

名護市④

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	大湿帯の御真影奉護壕跡	御真影奉護壕	人工壕
2	上皇の紀元二千六百年祭記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
17	大清崎収容所跡	収容所	その他

宜野座村

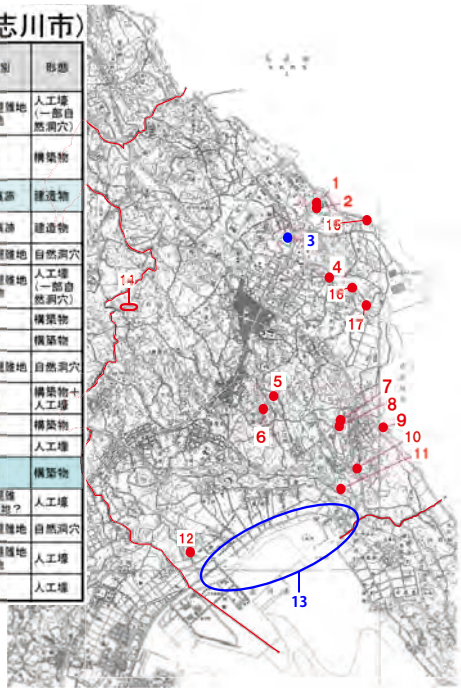
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	水汲みの防空壕風呂場	住民避難地	墓
2	クシ墓	住民避難地	墓
3	メガー	住民避難地	自然洞穴
4	シリガー	住民避難地	自然洞穴
5	トゥーカーガマ	住民避難地	自然洞穴
6	ドンドンガマ	住民避難地	自然洞穴
7	ハランダーのガマ	住民避難地	自然洞穴
8	ムラガマ	住民避難地	自然洞穴
9	ジョーグチのガマ	住民避難地	自然洞穴
10	マツタラウブガマ	住民避難地	自然洞穴
11	字福山の住民避難壕(消失?)	住民避難地	人工壕
12	ユンタンザ小ヌ墓	住民避難地	墓
13	トゥールガマ1	住民避難地	自然洞穴
14	トゥールガマ2	住民避難地	自然洞穴

戦争遺跡分布図(3)

うるま市・金武町・恩納村

うるま市①(旧具志川市)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	豊化森(ティーカムイ)の陣地壕	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
2	豊化森(ティーカムイ)の銃眼	陣地	構築物
3	旧天願橋跡(ターチ橋、ウフ橋)	破壊痕跡	建造物
4	旧宇堅橋跡	破壊痕跡	建造物
5	上江洲のクラガー	住民避難地	自然洞穴
6	喜仲のマヤーガマ	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
7	具志川の海軍砲台跡	陣地	構築物
8	旧日本軍陣地跡地	陣地	構築物
9	具志川城跡の壕(具志川グスク集団自決の地跡)	住民避難地	自然洞穴
10	大田の戦闘指揮所跡	陣地	構築物＋人工壕
11	旧日本軍砲台陣地跡	陣地	構築物
12	幸崎の構築壕	不明	人工壕
13	川田・塩屋の銃座跡	陣地	構築物
14	兼箇段壕群(消失?)	住民避難地、陣地?	人工壕
15	アラフチのガマ	住民避難地	自然洞穴
16	ナガヒジの壕	住民避難地＋陣地	人工壕
17	野島の森の壕	陣地	人工壕



うるま市②(旧与那城町1)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	伊計砲台跡	中城湾臨時要塞	構築物
2	ウシトラガマ	住民避難地	自然洞穴
3	クルカーガマ	住民避難地	自然洞穴
4	伊計グスクの陣地壕	陣地	人工壕
5	池味岡陸地内壕跡(アムジガマ)	住民避難地	自然洞穴
6	カニダガマ	住民避難地	自然洞穴
7	宇平安座の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

うるま市④(旧勝連町1)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	浜比嘉ウシトラガマ	住民避難地	自然洞穴
2	ミーハンチャーガマ	住民避難地	自然洞穴
3	百名家の防風	被災痕跡	建造物

恩納村①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	名嘉真の住民避難壕	住民避難地	人工壕
2	ウトイガマ	住民避難地	自然洞穴
22	熱田御嶽一帯の壕	不明	人工壕

金武町①

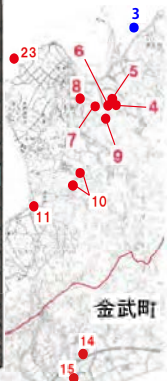
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	故陸軍上等兵・井関兵二郎の墓	住民避難地	墓
2	ウッカー洞	住民避難地	自然洞穴
3	慕代田の壕	住民避難地	不明
4	旧金武村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	ティラガマ	住民避難地	自然洞穴
6	メーカジメーヌガマ	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
7	アナガー	住民避難地	自然洞穴
8	金武鍾乳洞	住民避難地	自然洞穴
9	徒霧紀念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

金武町②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
10	ナギシヌメーヌガマ	住民避難地	自然洞穴
11	登平洞陣地壕	陣地	陣地壕
12	高洋陸秘匿壕(消失)	陣地	陣地壕
13	上島の住民避難壕	住民避難地	人工壕
16	惜首橋跡	破壊痕跡	建造物

恩納村②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
3	ギナン原のトーチカ跡	陣地	構築物
4	当袋川ダム下流の壕	陣地	人工壕
5	東袋の壕	陣地	人工壕
6	恩納バイパス建設工事後続部の壕	陣地	人工壕
7	恩納バイパス建設工事後陣続部の壕群	陣地	人工壕
8	ウガミーの壕	陣地	人工壕
9	4班の壕	住民避難地	人工壕
10	2班の壕群	住民避難地	人工壕
11	赤橋	被災痕跡	建造物
12	石川岳のタコツボ跡	陣地	タコツボ
13	石川岳の住民避難地跡	住民避難地	その他
14	銅山跡の壕	住民避難地	人工壕
15	メーヌカー沿いの壕群	住民避難地	人工壕
16	山田城の壕群(ラランジガマ)	住民避難地	自然洞穴
17	アマキンガマ	住民避難地	自然洞穴
18	西金武工業団内(イリカンジョウ)の避難壕	住民避難地	人工壕
19	ハブヒティガマ	住民避難地	自然洞穴
20	コージガマ	住民避難地	自然洞穴
21	カンジャーガマ	住民避難地	自然洞穴



恩納村③

各番	戦争遺跡名	種別	形態
23	ウドゥイガマ	住民避難地	自然洞穴
24	仲泊大道原の壕(消失)	不明	人工壕
25	仲泊チンバタキ	住民避難地	自然洞穴
26	仲泊のトーチカ	陣地	構築物
27	真栄田のトーチカ	陣地	構築物
28	カンジャグスクのトーチカ	陣地	構築物

金武町③

各番	戦争遺跡名	種別	形態
14	屋嘉区長の避難壕	住民避難地	人工壕
15	屋嘉の丘の住民避難壕群	住民避難地	人工壕

1:75,000　2000m

戦争遺跡分布図(4)

読谷村・嘉手納町・沖縄市・うるま市

読谷村①

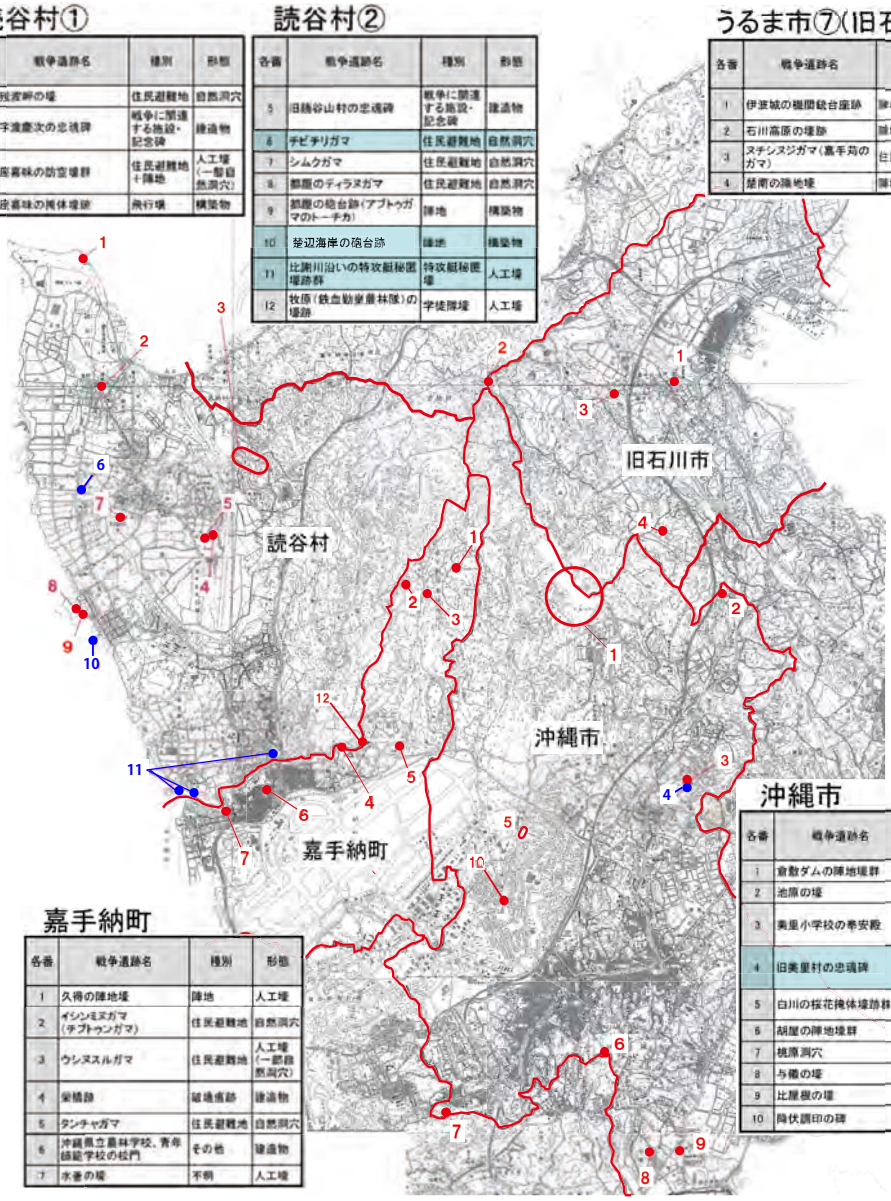
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	残波岬の壕	住民避難地	自然洞穴
2	宇流麻次の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
3	座喜味の防空壕群	住民避難地＋陣地	人工壕（一部自然洞穴）
4	座喜味の掩体壕跡	飛行場	構築物

読谷村②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
5	旧勝谷山村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
6	チビチリガマ	住民避難地	自然洞穴
7	シムクガマ	住民避難地	自然洞穴
8	都屋のティラヌガマ	住民避難地	自然洞穴
9	都屋の砲台跡（アブトゥガマのトーチカ）	陣地	構築物
10	楚辺海岸の砲台跡	陣地	構築物
11	比謝川沿いの特攻艇秘匿壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
12	牧原（鉄血勤皇義林隊）の壕跡	学徒陣壕	人工壕

うるま市⑦(旧石川市)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	伊波城の機関銃台座跡	陣地	構築物
2	石川高原の壕跡	陣地	人工壕
3	ヌチシヌジガマ（嘉手苅のガマ）	住民避難地	自然洞穴
4	楚南の陣地壕	陣地	人工壕

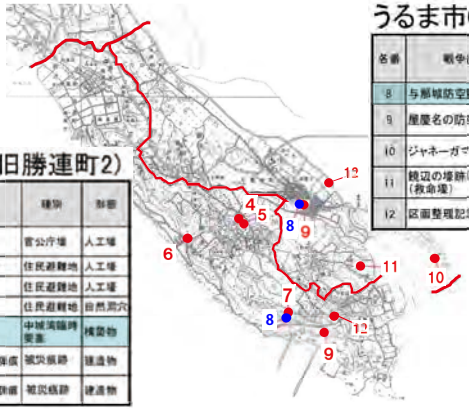


沖縄市

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	倉敷ダムの陣地壕群	陣地	人工壕
2	池原の壕	不明	人工壕
3	美里小学校の希安殿	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
4	旧美里村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	白川の桜花掩体壕跡群	飛行場	構築物
6	胡屋の陣地壕群	陣地？	人工壕
7	桃原洞穴	住民避難地	自然洞穴
8	与儀の壕	不明	人工壕
9	比屋根の壕	陣地	人工壕
10	降伏調印の碑	その他	建造物

嘉手納町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	久得の陣地壕	陣地	人工壕
2	イシシミヌガマ（チブトゥンガマ）	住民避難地	自然洞穴
3	ウシヌスルガマ	住民避難地	人工壕（一部自然洞穴）
4	栄橋跡	破壊痕跡	建造物
5	タンチャガマ	住民避難地	自然洞穴
6	沖縄県立農林学校、青年師範学校の校門	その他	建造物
7	水釜の壕	不明	人工壕



うるま市⑤(旧勝連町2)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
4	勝連役場の壕	官公庁壕	人工壕
5	平安名の住民避難壕	住民避難地	人工壕
6	比嘉ワイトウイの壕	住民避難地	人工壕
7	ヒージャーガマ	住民避難地	自然洞穴
8	平敷屋砲台跡	中城湾臨時要塞	構築物
9	平敷屋製糖工場跡の弾痕	被災痕跡	建造物
12	平敷屋トウノウタキの弾痕	被災痕跡	建造物

うるま市③(旧与那城町2)

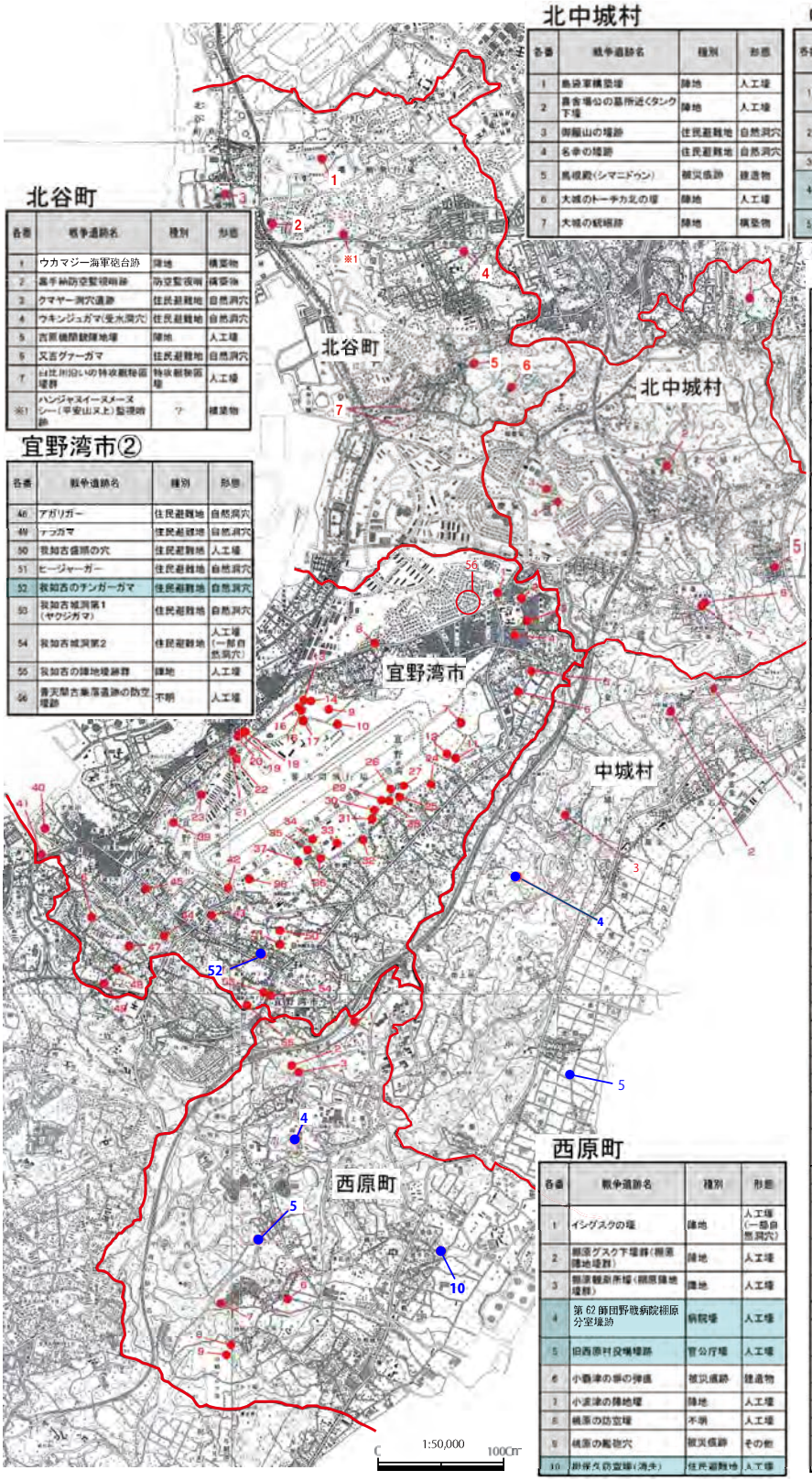
各番	戦争遺跡名	種別	形態
8	与那城防空監視哨跡	防空監視哨	構築物
9	屋慶名の防空壕	住民避難地	人工壕
10	ジャネーガマ	住民避難地	自然洞穴
11	親泊の壕跡（マヤーガマ）（救命壕）	住民避難地	自然洞穴
12	区画整理記念碑の弾痕	被災痕跡	建造物

うるま市⑥(旧勝連町3)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
10	津堅新川・クボウグスクの砲台跡（陣地壕群）	陣地	人工壕（一部自然洞穴）
11	津堅灯台跡の弾痕	被災痕跡	建造物

戦争遺跡分布図(5)

北谷町・宜野湾市・中城村・北中城村・西原町



北中城村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	島袋軍構築壕	陣地	人工壕
2	島袋場公の墓所近くタンク下壕	陣地	人工壕
3	御殿山の壕跡	住民避難地	自然洞穴
4	名幸の壕跡	住民避難地	自然洞穴
5	馬場殿(シマニドウン)	被災痕跡	建造物
6	大城のトーチカ北の壕	陣地	人工壕
7	大城の祝祭跡	陣地	構築物

中城村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	中城村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
2	中城城跡西のガマ	住民避難地	自然洞穴
3	カーブヤーガマ	住民避難地	自然洞穴
4	161.3高地陣地の戦闘指揮所・陣地壕跡群	陣地	構築物+人工壕
5	津覇のトーチカ跡	陣地	構築物

北谷町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	ウカマジー海軍砲台跡	陣地	構築物
2	嘉手納防空監視哨跡	防空監視哨	構築物
3	クマヤー洞穴遺跡	住民避難地	自然洞穴
4	ウキンジュガマ(受水洞穴)	住民避難地	自然洞穴
5	吉原機関銃陣地壕	陣地	人工壕
6	又吉グヮーガマ	住民避難地	自然洞穴
7	白比川沿いの特攻艇秘匿壕群	特攻艇秘匿壕	人工壕
※1	ハンジャヌイーヌメーヌシー(平安山又上)監視哨跡	?	構築物

宜野湾市②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
46	アガリガー	住民避難地	自然洞穴
49	ナフガマ	住民避難地	自然洞穴
50	我如古信原の穴	住民避難地	人工壕
51	ヒージャーガー	住民避難地	自然洞穴
52	我如古のチンガーガマ	住民避難地	自然洞穴
53	我如古城洞第1(ヤクジガマ)	住民避難地	自然洞穴
54	我如古城洞第2	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
55	我如古の陣地壕跡群	陣地	人工壕
56	普天間古集落遺跡の防空壕跡	不明	人工壕

宜野湾市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	普天間宮洞	住民避難地	自然洞穴
2	普天間第1洞	住民避難地	自然洞穴
3	ウシガマ	住民避難地	自然洞穴
4	普天間第2洞	住民避難地	自然洞穴
5	タキジョウガマ	住民避難地	自然洞穴
6	ターバルガマ	住民避難地	自然洞穴
7	新城ガー	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
8	フトゥケーブ	住民避難地	自然洞穴
9	クチグワーアブ	住民避難地	自然洞穴
10	ジキャシーアブ(アジミー)	住民避難地	自然洞穴
11	アブガー	住民避難地	自然洞穴
12	エーグチガマ	住民避難地	自然洞穴
13	アカガマ	住民避難地	自然洞穴
14	キリンキリン洞(ケレンケレンガマ)	住民避難地	自然洞穴
15	長之佐久ガマ第2洞	住民避難地	自然洞穴
16	長之佐久ガマ第1洞	住民避難地	自然洞穴
17	アカガマ(ハーメーアブ)	住民避難地	自然洞穴
18	大山洞第1(海食洞)	住民避難地	自然洞穴
19	大山洞第2	住民避難地	自然洞穴
20	大山洞第3(海食洞)	住民避難地	自然洞穴
21	マヤーガマ第2	住民避難地	自然洞穴
22	マヤーガマ第1	住民避難地	自然洞穴
23	ミスクミガマ	住民避難地	自然洞穴
24	ホーミアブ	住民避難地	自然洞穴
25	マーカーガマ	住民避難地	自然洞穴
26	アンガー	住民避難地	自然洞穴
27	ガママチャー	住民避難地	自然洞穴
28	チィラガマ	住民避難地	自然洞穴
29	ミーガー	住民避難地	自然洞穴
30	ムーティー第1洞	住民避難地	自然洞穴
31	ムーティー第2洞	住民避難地	自然洞穴
32	ムーティー第3洞	住民避難地	自然洞穴
33	アンガー	住民避難地	自然洞穴
34	メーンサクガマ	住民避難地	自然洞穴
35	カーグムヤーガマ	住民避難地	自然洞穴
36	クマイアブ	住民避難地	自然洞穴
37	クニヨシメーヌガマ	住民避難地	自然洞穴
38	オオブキガマ	住民避難地	自然洞穴
39	マヤーアブ	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
40	平地道陣地	陣地	構築物+人工壕
41	メーヌガマ	住民避難地	自然洞穴
42	佐真下の宮川の壕	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
43	ナガサクオーナチマヤーガマ	住民避難地	自然洞穴
44	アガリイサガマ	住民避難地	自然洞穴
45	ドンドンガマ	住民避難地	自然洞穴
46	おもと園近くの陣地壕	陣地	人工壕
47	嘉数のトーチカ跡(嘉数高台のトーチカ・陣地壕)	陣地	構築物+人工壕

西原町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	イシグスクの壕	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
2	熊添グスク下壕群(熊添陣地壕群)	陣地	人工壕
3	熊添観測所壕(熊添陣地壕群)	陣地	人工壕
4	第62師団野戦病院棚原分室壕跡	病院壕	人工壕
5	旧西原村役場壕跡	官公庁壕	人工壕
6	小橋川の夢の弾痕	被災痕跡	建造物
7	小波津の陣地壕	陣地	人工壕
8	横断の防空壕	不明	人工壕
9	横断の動物穴	被災痕跡	その他
10	新屋久防空壕(湧き)	住民避難地	人工壕

※1　前回分布調査でプロットされているが、明確な資料が探すことが出来ず、嘉手納防空監視哨があった場所も平安山又上とされているので、同一の可能性もあるので遺跡数からは除外した。

戦争遺跡分布図(6)

浦添市・那覇市

那覇市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	首里司令部壕跡(第32軍司令部壕と周辺遺跡)	司令部壕	人工壕＋構築物
2	旧首里市の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
3	安谷川樋嶺のガマ	住民避難地	自然洞穴
4	首里末吉の山陣地と周辺遺跡	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
5	宝口樋川対岸の壕	陣地	人工壕
6	首里桃原町2丁目の壕(宮の方の壕)	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
7	首里桃原町2丁目の壕(虎の方の壕)	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
8	中城御殿石垣の弾痕とガマ	被災痕跡他	建造物＋自然洞穴
9	池端町民の防空壕群	住民避難地	人工壕
10	真嘉比川沿いの壕	住民避難地	人工壕
11	虎瀬山公園の陣地跡	陣地	人工壕
12	井ヶ原の通信所跡	陣地	構築物
13	首里崎山町1丁目弾痕の残る壁	被災痕跡	建造物
14	崎山御嶽南側の壕群	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
15	ハナンダ・古墓地壕群	住民避難地	自然洞穴
16	ヒジガーピラ東側の陣地跡	陣地	人工壕
17	崎山御嶽南側の壕群	不明	人工壕
18	仲村渠山の壕	住民避難地	自然洞穴
19	金城町大アカギ北側の壕	住民避難地	人工壕
20	玉陵南側の壕群	不明	人工壕(一部自然洞穴)
21	首里観音堂南下の陣地跡	陣地	不明
22	真嘉比壕	陣地	人工壕
23	繁多川公園内の壕群	不明	人工壕(一部自然洞穴)
24	シガイヌカーの壕群	不明	人工壕(一部自然洞穴)
25	旧真和志村役場・那覇警察署壕跡(新壕)	官公庁壕	人工壕(一部自然洞穴)
26	識名宮ヌガマ(お宮のガマ)	住民避難地	自然洞穴
27	イシダのガマ	住民避難地	自然洞穴
28	ムラグッヌガマ	住民避難地	自然洞穴
29	シッポウジヌガマ(県庁警察壕)	官公庁壕	人工壕(一部自然洞穴)
30	黒下原の壕群	陣地	人工壕
31	識名園動植物台下の壕	陣地	人工壕

那覇市②

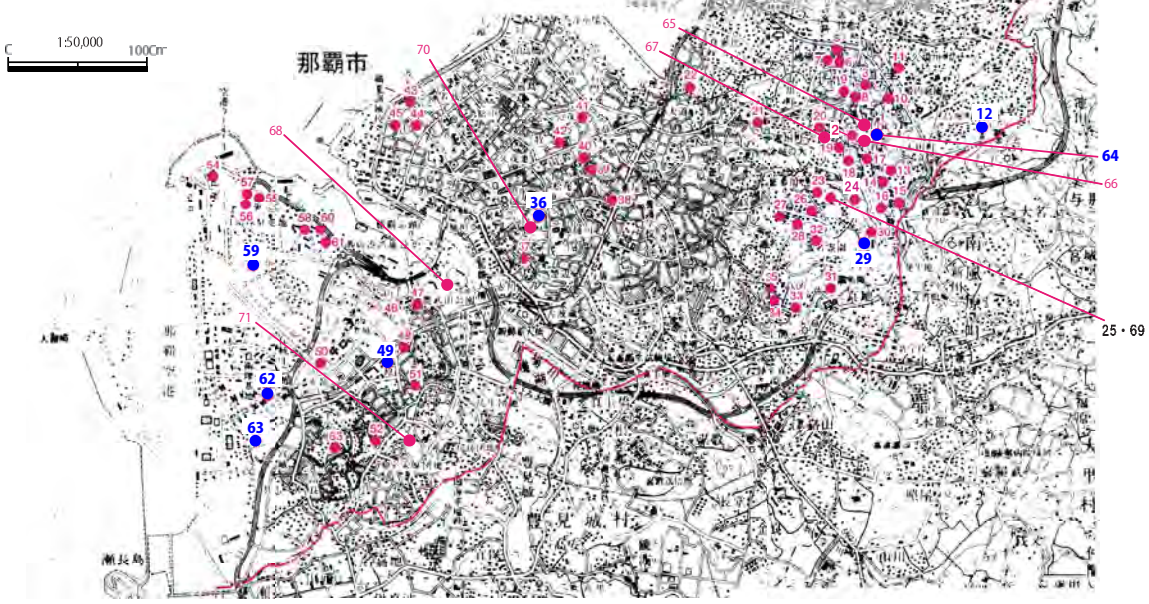
各番	戦争遺跡名	種別	形態
32	鳥堀の壕	不明	人工壕
33	アガリバンタ壕群	陣地	人工壕
34	識名4丁目の壕(識名のガマ)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
35	石部隊野戦病院分院の壕(ウフガマ)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
36	楚辺一丁目(城丘)の陣地壕跡	陣地	人工壕
37	楚辺フサチ山の壕	陣地	人工壕
38	新垣家の弾痕	被災痕跡	建造物
39	てんぷら坂の壕	住民避難地	人工壕
40	希望丘公園陣地跡	住民避難地＋陣地	自然洞穴
41	宮里家の塀の弾痕	被災痕跡	建造物
42	緑丘公園陣地跡	陣地	人工壕
43	旭ヶ丘公園の陣地壕	陣地	人工壕
44	千人ガマ跡	住民避難地	自然洞穴
45	辻原墓地避難地	住民避難地	人工壕
46	垣花台地の陣地跡	陣地	構築物＋人工壕
47	山下町大通りの壕	住民避難地	自然洞穴
48	田原2丁目の壕	陣地	人工壕
49	ことぶき山の陣地壕跡	陣地	人工壕
50	赤嶺配水池の壕群	陣地	人工壕
51	小禄の共同防空壕群	住民避難地	人工壕
52	宇栄原2丁目の壕	陣地	人工壕
53	宇栄原3丁目の壕	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
54	崎原灯台跡の壕	住民避難地	人工壕
55	らくだ山陣地壕跡①	陣地	人工壕
56	らくだ山陣地壕跡②	陣地	人工壕
57	鏡水海軍砲台跡	陣地	構築物
58	掩体壕	飛行場	構築物
59	鏡水海軍司令部壕跡(戦闘指揮所壕)	司令部壕	構築物
60	正木隊の壕	陣地	人工壕
61	高射砲部隊の壕	陣地	人工壕
62	当間海軍砲台跡	陣地	構築物
63	高良の掩体壕跡	飛行場	構築物
64	留魂壕跡	学徒隊壕	人工壕
65	首里バンタン山の通信所跡	陣地	人工壕
66	首里城石垣の弾痕	被災痕跡	建造物
67	玉陵の弾痕	被災痕跡	建造物
68	護国神社の被災痕跡群	被災痕跡	建造物
69	繁多川の墓地の弾痕	被災痕跡	建造物
70	城岳の墓地の弾痕	被災痕跡	建造物
71	宇宇栄原の壕	陣地	人工壕

浦添市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	牧港テラブのガマ	住民避難地	自然洞穴
2	ナデフチャーガマ	住民避難地	自然洞穴
3	ウマジガマ	住民避難地	自然洞穴
4	城間洞	住民避難地	自然洞穴
5	城間の壕	不明	人工壕
6	21大隊第3中隊の壕	陣地	人工壕
7	伊祖公園の陣地壕	陣地	人工壕
8	伊祖のトーチカ壕跡	陣地	構築物
9	慈敬の病院壕	病院壕	人工壕(一部自然洞穴)
10	浦添大公園内の陣地壕	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
11	ナカマンディラ	不明	人工壕(一部自然洞穴)
12	仲間の壕	不明	人工壕
13	仲間住民避難壕群(シーマ/ウラタキ、6班の壕)	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
14	ディークガマ	住民避難地＋陣地	人工壕(一部自然洞穴)
15	仲間の住民避難壕	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
16	仲間後原の陣地壕	陣地	人工壕
17	勢理客地の陣地壕跡群	陣地	人工壕

浦添市②

各番	戦争遺跡名	種別	形態
18	浦添城跡南側斜面壕群(乾パン壕)	陣地	人工壕
19	浦添城跡南側斜面壕群(陣食・兵員壕)	陣地	人工壕
20	前田の陣地壕	陣地	人工壕
21	真栄堂壕	陣地	人工壕
22	経塚の陣地壕	陣地	人工壕
23	経塚の壕	陣地	人工壕
24	津嘉山原の壕群	住民避難地	人工壕
25	安波茶壕跡	陣地	人工壕
26	独立機関銃第十四大隊本部供養塔近くの壕	陣地	人工壕
27	浦添弾薬庫の弾痕	被災痕跡	建造物
28	沢岻の陣地壕	陣地	人工壕
29	クビリ山の壕	陣地	人工壕
30	宮城のティラブヌガマ	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
31	勢理客の壕	不明	人工壕
32	カンジャーガマ	不明	人工壕(一部自然洞穴)
33	牧港の墓地の弾痕	被災痕跡	建造物
34	浦添ようどれ増しん御門の被災痕	被災痕跡	建造物

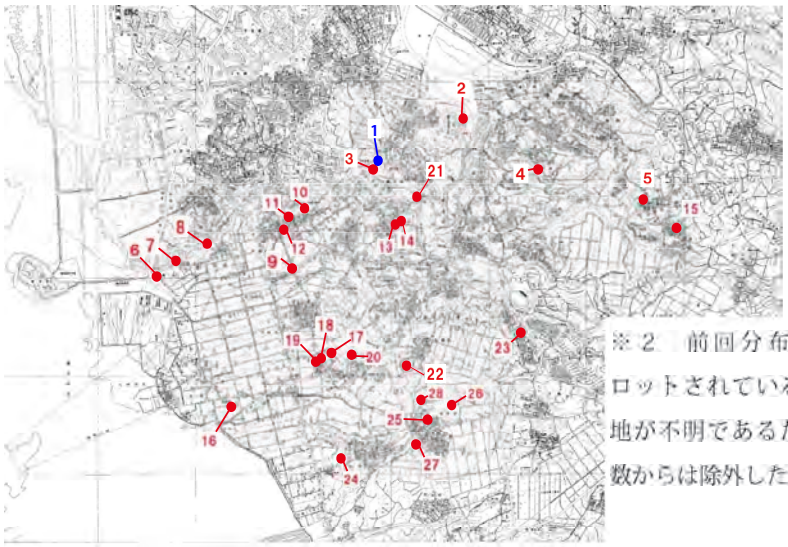


戦争遺跡分布図(7)

豊見城市・与那原町・南城市・南風原町

豊見城市(旧豊見城村)

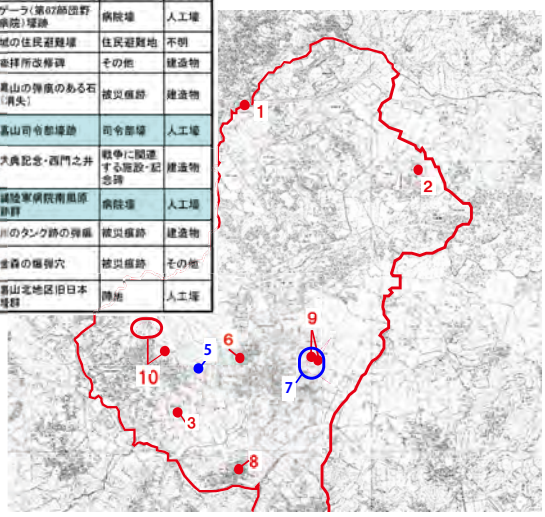
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	豊見城海軍司令部壕跡	司令部壕	人工壕
2	第24師団第7野戦病院壕	病院壕	人工壕
3	火番原の壕	不明	不明
4	マヤーガマ	不明	自然洞穴
5	長堂集落の壕	住民避難地+陣地	人工壕
6	アカサチ森軍構築壕	陣地	人工壕
7	瀬長の軍構築壕	陣地	人工壕
8	田頭の軍構築壕	陣地	人工壕
9	名嘉地の住民避難壕	住民避難地	人工壕
10	ウフカーの弾痕	被災痕跡	建造物
11	我那覇の軍構築壕	陣地	人工壕
12	メーヌモー壕	不明	不明
13	ヒジュン	不明	不明
14	ユンチャガー	不明	不明
15	前内原の石垣の弾痕	被災痕跡	建造物
16	ジジモーの軍構築壕	陣地	人工壕
17	ウィードゥギの壕	不明	不明
18	川上小ヌ前の石垣	その他	建造物
19	東側内ヒンプンの弾痕	被災痕跡	建造物
20	若知在森の軍構築壕	陣地	人工壕
21	上田の山部隊壕	陣地	不明
22	アカモーの民間壕跡	住民避難地	人工壕
23	テークガー	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
24	チンチャンモーの壕	住民避難地	不明
25	記念二千六百年祭国旗掲揚台	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
26	保栄茂のトーチカ跡	陣地	構築物
27	保栄茂の住民避難壕	住民避難地	不明
28	保栄茂の警備所跡	陣地	構築物
注2	新門小の石垣	その他	建造物



※2　前回分布調査でプロットされているが、所在地が不明であるため、遺跡数からは除外した。

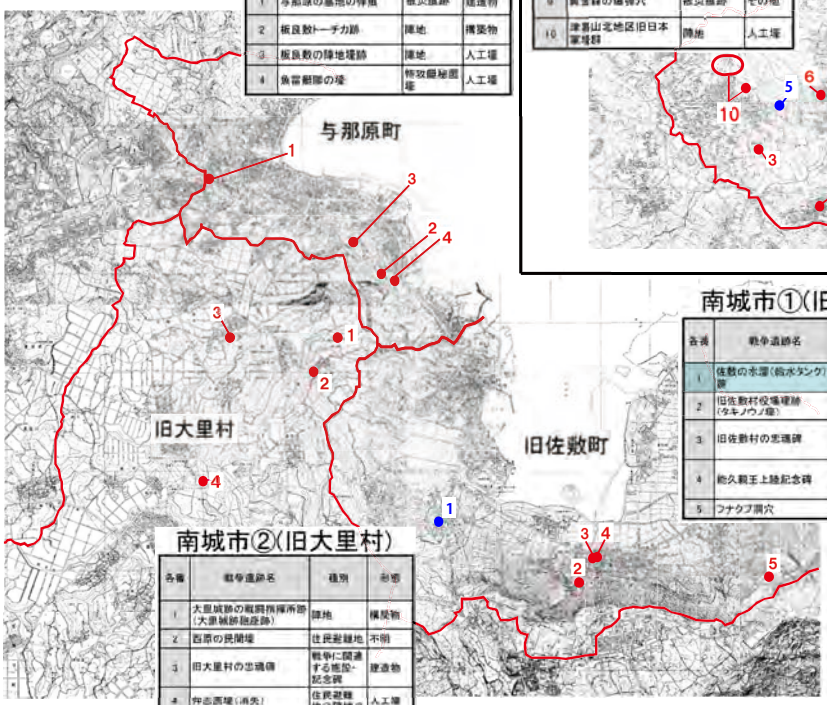
南風原町

各番	戦争遺跡名	種別(報告書)	形態(報告書)
1	ナゲーラ(第62師団野戦病院)壕跡	病院壕	人工壕
2	宮城の住民避難壕	住民避難地	不明
3	神宮拝所改修碑	その他	建造物
4	津嘉山の弾痕のある石垣(消失)	被災痕跡	建造物
5	津嘉山司令部壕跡	司令部壕	人工壕
6	御大典記念・西門之井戸	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
7	沖縄陸軍病院南風原壕跡群	病院壕	人工壕
8	山川のタンク跡の弾痕	被災痕跡	建造物
9	黄金森の爆弾穴	被災痕跡	その他
10	津嘉山北地区旧日本軍壕群	陣地	人工壕



与那原町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	与那原の墓地の弾痕	被災痕跡	建造物
2	板良敷トーチカ跡	陣地	構築物
3	板良敷の陣地壕跡	陣地	人工壕
4	魚雷艇隊の壕	特攻兵器秘匿壕	人工壕



南城市①(旧佐敷町)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	佐敷の水源(給水タンク)跡	中城湾海軍燃料支廠	構築物
2	旧佐敷村役場壕跡(タキノウジ壕)	官公庁壕	人工壕
3	旧佐敷村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
4	船久親王上陸記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	フナタブ洞穴	住民避難地	自然洞穴

南城市②(旧大里村)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	大里城跡の戦闘指揮所跡(大里城跡陣地跡)	陣地	構築物
2	西原の民間壕	住民避難地	不明
3	旧大里村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
4	仲志西壕(消失)	住民避難地?陣地?	人工壕
5	平川壕	住民避難地+陣地?	人工壕

1:50,000　1000m

戦争遺跡分布図(8)

南城市・八重瀬町

南城市③(旧玉城村1)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	ウガン小(壕)	住民避難地	不明
2	ウチノクラ	住民避難地	不明
3	ウトゥガー近くの避難壕	住民避難地	人工壕
4	カラスゲイ(陣地)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
5	軍食糧倉庫	不明	不明
6	船越集落内住民避難壕	住民避難地	不明
7	船越小学校西側の壕	不明	不明
8	船越の住民避難壕群	住民避難地	不明
9	フルデラガマ	陣地	自然洞穴
10	フルデラガマ近くの陣地跡群	陣地	人工壕？
11	メースモー東側陣地跡	陣地	人工壕？
12	山川堂階段陣地跡群	陣地	人工壕？
13	新川壕	住民避難地	自然洞穴
14	沖縄陸軍病院糸数分室壕跡(アブチラガマ)	病院壕＋陣地＋住民避難地	自然洞穴
15	糸数城跡通信隊の壕	陣地	不明
16	糸数城跡統制群	陣地	構築物
17	糸数城跡戦車壕	陣地	人工壕
18	上の山壕	住民避難地	自然洞穴
19	大城小屋敷内壕	住民避難地	自然洞穴
20	海上保安部沖縄通信所近くの陣地跡	陣地	人工壕？
21	海上保安部沖縄通信所の陣地跡	陣地	人工壕？
22	新屋敷陣地跡群	陣地	人工壕？
23	新屋敷内壕	住民避難地	人工壕
24	独立混成第15連隊経理部壕跡(美田跡隊・経理室跡)	陣地	自然洞穴
25	独立混成第15連隊監視所跡(美田跡隊監視哨)	陣地	構築物
26	ヤンビー山(壕)※	住民避難地	自然洞穴
27	ウーアブ(布アブ)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
28	喜良原海軍壕	陣地	自然洞穴
29	ガンガラーアブ	住民避難地＋陣地	自然洞穴
30	百良原の壕	不明	不明
31	クラガー(糸川)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
32	シムクラガー(下糸川)	住民避難地＋陣地	自然洞穴
33	タチアブ(壕)	住民避難地	自然洞穴
34	チラガマ	不明	自然洞穴
35	ウリヤマ	陣地	自然洞穴
36	アマチジューガマ	住民避難地	自然洞穴
37	アシジャガマ	住民避難地	自然洞穴
38	ケーンター	住民避難地＋陣地	自然洞穴
39	タチアブー(壕)	住民避難地	不明
40	ティーラガマ	住民避難地＋陣地	自然洞穴
41	マージガマ	住民避難地	自然洞穴
42	マヤーアブ	不明	自然洞穴
43	アルブセデラ	不明	不明
44	医務室の壕	不明	不明
45	ガンガラー壕(ユーイン壕・ランチン壕)	住民避難地	自然洞穴
46	機関銃陣地跡※	陣地	不明
47	玉泉洞(平和川壕)	住民避難地	自然洞穴
48	玉泉洞横の壕	不明	人工壕
49	ターガー	不明	不明
50	ターガーガマ	住民避難地＋陣地	自然洞穴
51	第6中隊指揮班陣地跡	陣地	不明

南城市④(旧玉城村2)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
52	第7中隊前進陣地跡	陣地	不明
53	第8中隊の壕	陣地	不明
54	第8中隊指揮班の陣地跡	陣地	不明
55	第9中隊の壕	陣地	不明
56	大道原の壕群	不明	不明
57	大道の迫撃砲陣地跡	陣地	不明
58	タコツボ跡	陣地	タコツボ
59	チンラモーグヘーの壕(食糧隊の壕)※	陣地	不明
60	穴穴	不明	不明
61	ハナンダーゴー※	不明	不明
62	歩兵壕	陣地？	不明
63	屋川第1洞	不明	自然洞穴
64	屋川第2洞	不明	自然洞穴
65	前川の防空壕跡群	住民避難地	人工壕
66	アバタガマ	不明	自然洞穴
67	マジムン洞	不明	自然洞穴
68	安次富ハル宅屋敷壕	住民避難地	人工壕
69	上間文勤宅前の墓※	住民避難地	墓
70	上間文勤宅屋敷壕	住民避難地	人工壕
71	大城和勇宅後ろの壕	住民避難地	不明
72	大城好信宅後ろの壕	住民避難地	不明
73	神谷常信宅屋敷壕	住民避難地	人工壕
74	久保田ハル宅屋敷壕	住民避難地	人工壕
75	富山の機関銃陣地	陣地	不明
76	富山の戦車防衛陣地壕	陣地	不明
77	大城病院壕	住民避難地	不明
78	クバ城壕	住民避難地	自然洞穴
79	仲宗根城壕	住民避難地＋陣地	不明
80	宮里の住民避難壕	住民避難地	不明
81	山原山壕	陣地	自然洞穴
82	クシヤージ	住民避難地	自然洞穴
83	チナントゥ(壕)	住民避難地	不明
84	チブントウアブ	不明	不明
85	ヒチナクブ	住民避難地	自然洞穴
86	ヤージヤマ(壕)	住民避難地	不明
87	久保田原の陣地壕	陣地	不明
88	外当アジシー	住民避難地	不明
89	ヒラバルダワー	陣地	不明
90	マッサニ原の壕	住民避難地	人工壕
91	ハナンダ壕	住民避難地	自然洞穴
92	カンシャギ門中の墓の壕	住民避難地	不明
93	真栄門中墓前の壕	住民避難地	不明
94	島ヌ後の壕	住民避難地	自然洞穴？
95	当武島観音堂近くの構築壕	不明	人工壕
96	当武島の構築壕	不明	人工壕
97	アジシー壕	住民避難地	不明
98	カーント壕	住民避難地	自然洞穴？
99	カマサー壕	陣地	自然洞穴？
100	ク ルク壕	住民避難地	自然洞穴？
101	伊佐良原の陣地壕	陣地	不明
102	川平田壕	不明	不明
103	鳳凰南の陣地壕	陣地	不明

八重瀬町①(旧東風平町)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	宜次の製糖工場跡の弾痕	被災痕跡	建造物
2	野戦重砲兵第1連隊本部壕	陣地	不明
3	防衛隊の壕	陣地	不明
4	第24師団第1野戦病院壕跡	病院壕	人工壕
5	高嶺の石彫り大観子の弾痕	被災痕跡	建造物

八重瀬町②(旧具志頭村1)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	糸数小壕・ティラノヤチガマ	住民避難地＋官公庁壕	人工壕
2	ティダヌチジガマ	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
3	アンガーガマ	陣地	自然洞穴
4	新垣陣跡	住民避難地＋陣地	自然洞穴
5	新城のトーチカ跡	陣地	構築物
6	メーヌスンタガマ	陣地	自然洞穴
7	山川の防空壕跡群	住民避難地	人工壕
8	長嶺の特攻艇秘匿壕群	特攻艇秘匿壕	人工壕

八重瀬町③(旧具志頭村2)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
9	アガリンダカリティラガマ	官公庁壕	人工壕
10	イームイの壕	住民避難地	自然洞穴
11	イリーユージガマ	陣地＋官公庁壕	自然洞穴
12	クラシンジョウの砲台跡(クラシンジョウの壕)	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
13	ティラガマ	陣地	自然洞穴
14	仲間(座喜味)壕	陣地	自然洞穴
15	西与儀の壕	陣地＋官公庁壕	自然洞穴
16	第24師団第1野戦病院新城分院壕跡(ヌヌマチガマ・ガラビガマ)	陣地＋病院壕	人工壕(一部自然洞穴)
17	ユーヌスシガマ	不明	自然洞穴

八重瀬町④(旧具志頭村3)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
18	ギーザバンダ	その他	その他
19	アブチラ壕	不明	不明
20	旧具志頭村の出陣碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

南城市⑤(旧玉城村3)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
104	外田原の陣地壕	陣地	不明
105	門原の陣地壕群	陣地	不明
106	門原の球部隊陣地壕	陣地	不明
107	野戦重砲部隊の壕	陣地	不明
108	新原の陣地壕	陣地	不明
109	イリハンタゴー(壕)	不明	不明
110	飯原の陣地壕	陣地	不明
111	飯原大隊陣地壕	陣地	不明
112	伊佐良原の陣地壕	陣地	不明
113	伊佐良原の古墓群	不明	墓
114	コンマーアブ	住民避難地	自然洞穴
115	外田原の陣地壕(フカタバルの陣地壕)	陣地	不明

旧知念村

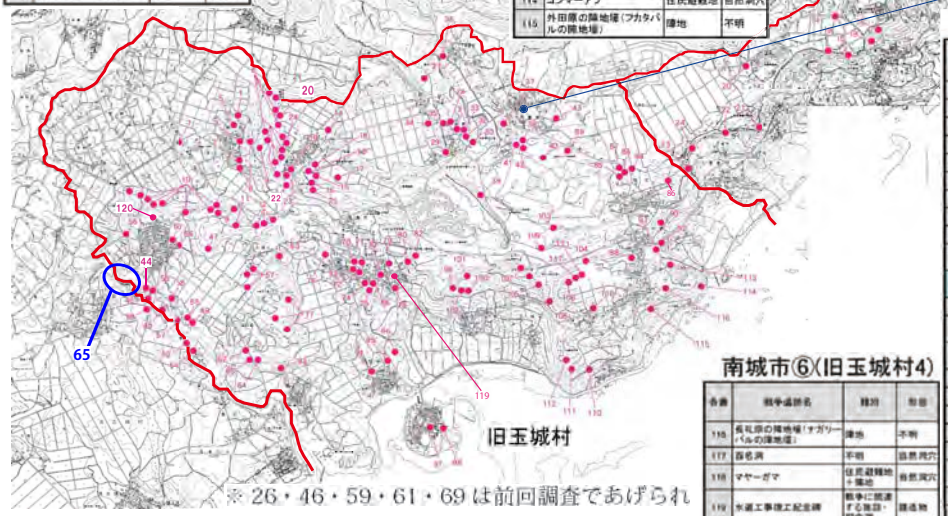
アガタヌメーガマ
住民避難地区・自然洞穴
(2015年６月追加)

南城市⑥(旧玉城村4)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
116	糸数原の陣地壕(ナガリーバルの陣地壕)	陣地	不明
117	百名洞	不明	自然洞穴
118	マヤーガマ	住民避難地＋陣地	自然洞穴
119	水道工事現工記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
120	金丸子殿下御成婚記念碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

南城市⑦(旧知念村)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	久手堅避難壕	住民避難地	人工壕
2	ウェーガーバンタ	不明	不明
3	イーヌビラバル	不明	自然洞穴
4	ウティンダ	不明	自然洞穴
5	カーマタ	不明	不明
6	カンザーメー	住民避難地	自然洞穴
7	タガナ	住民避難地	自然洞穴
8	ヌル壕	不明	不明
9	ヤキファ	住民避難地	自然洞穴
10	ウローカー砲台跡	中城湾臨時要塞	構築物
11	喜屋武岬の洞穴	被災痕跡	その他
12	テラ山	不明	人工壕
13	ウフグスク陣地壕跡(百岡陣地壕)	陣地	人工壕
14	アンガーアブ	住民避難地＋陣地	自然洞穴
15	ウハカル	住民避難地	不明
16	知念クルク	不明	不明
17	チーギタ	住民避難地	不明
18	ルミチ	住民避難地	自然洞穴
19	ウージガマ	不明	不明
20	ジーブアブ	住民避難地＋陣地	不明
21	ハジシ山	住民避難地	不明
22	カンチャゴー	住民避難地	人工壕
23	タタンシチ	住民避難地	自然洞穴
24	ヤローヤー	住民避難地	自然洞穴



※26・46・59・61・69は前回調査であげられているが所在地が明確でなく、遺跡数から除外

戦争遺跡分布図(9)

糸満市

糸満市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	城ンモのガマ	住民避難地	人工壕
2	サキタリガマ(チカジクガマ)	陣地	人工壕
3	第平権現の壕跡	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
4	富盛山陣地壕	陣地	人工壕
5	カーブヤーガマ	住民避難地	人工壕
6	兼城村役場退避壕	官公庁壕	人工壕
7	座波の迫撃砲陣地跡	陣地	人工壕
8	フクギの壕	陣地	人工壕
9	病床の壕	住民避難地	人工壕
10	山部隊構築壕	陣地	人工壕
11	アンマサーガマ	住民避難地	自然洞穴
12	クシンカー、クシヌカー	住民避難地	自然洞穴
13	サシン墓、サシ墓	陣地	墓
14	アカマギシ	住民避難地	自然洞穴
15	タキンチャ	不明	不明
16	ウグワンモ、シラタキ、メーヤマ	住民避難地	自然洞穴
17	衛生兵の構築壕	陣地	人工壕
18	奥間グスク	住民避難地	自然洞穴
19	カマバンタ小	住民避難地	人工壕
20	くすのき山	住民避難地	人工壕
21	現糸満中学校後ろの壕	陣地	自然洞穴
22	ドンドンガマ、下川権現前	住民避難地	自然洞穴
23	福地門壕	住民避難地	自然洞穴
24	御嶽の壕	陣地	自然洞穴
25	阿屋グスク	陣地	自然洞穴
26	糸満警察署裏側の壕	陣地	人工壕
27	サーターヤーモの壕、糸満町役場下の壕	住民避難地	自然洞穴
28	山城毛戦争遺跡群 ※国旗掲揚台も含まれる	陣地＋被災痕跡＋戦争に関する施設・記念碑	人工壕他
29	観照(白殿堂)	陣地	構築物
30	白銀堂の周辺	住民避難地	不明
31	上原の避難壕	住民避難地	人工壕
32	摩文仁墓	陣地	墓
33	現八千代神宮近くの壕	不明	自然洞穴
34	第24師団司令部壕	司令部壕	人工壕
35	ミーンシーの壕	陣地	人工壕
36	与座第24師団トーチカ跡	陣地	構築物
37	与座の監視所跡	陣地	構築物
38	高橋製糖工場跡の煙突	被災痕跡	建造物
39	大城森の壕	陣地	人工壕
40	南山糖業跡の煙突	被災痕跡	建造物
41	南山糖業の角屋の煙突	被災痕跡	建造物
42	川端森の西壕	住民避難地	自然洞穴
43	国吉グスク前の石穴	住民避難地	自然洞穴
44	現浄瑠璃寺の壕	陣地	自然洞穴
45	国吉グスクの広場陣地	陣地	人工壕
46	シラタイの壕、山3480都隊二中陣地	陣地	人工壕
47	ダン山、炭山、タンガマ	陣地	人工壕
48	アナガー	住民避難地	自然洞穴
49	アラレーガマ、アラダイ	住民避難地	自然洞穴
50	ウフ壕(由原豊取の壕、32連隊の壕)	住民避難地	自然洞穴
51	クールーモー、クールー山	住民避難地	人工壕
52	現116番地の後ろの壕	陣地	自然洞穴
53	5組、6組の共同壕	住民避難地	人工壕
54	白梅の塔近くの壕(上の壕)	陣地	自然洞穴
55	白梅の塔近くの壕(下の壕)	病院壕	自然洞穴
56	スクバル、フクバル壕	住民避難地	人工壕
57	大宜の壕	住民避難地	自然洞穴
58	ドゥガーヤマの特攻艇陣地	特攻艇秘匿壕	人工壕
59	ドンドンガマ、2組共同壕	住民避難地	人工壕
60	真栄里特攻艇秘匿壕群(アミヤ原の特攻艇秘匿壕群)	特攻艇秘匿壕	人工壕
61	東原壕(東)、東原砲望壕	住民避難地	自然洞穴
62	ウスバーガマ	住民避難地	自然洞穴
63	軍構築壕	陣地	人工壕
64	シゲル一山の壕、シゲロウ山	陣地	人工壕
65	69連隊構築壕の東壕	陣地	人工壕
66	山3480都隊の壕	陣地	人工壕
67	アバタガマ	住民避難地	自然洞穴
68	メーンカー	住民避難地	その他
69	アブガマ、サマドウガマ	住民避難地	自然洞穴
70	ウンゾーシトウ、ウゾシトウ	陣地	人工壕
71	クラガー(字江城の壕)	陣地	自然洞穴

糸満市②

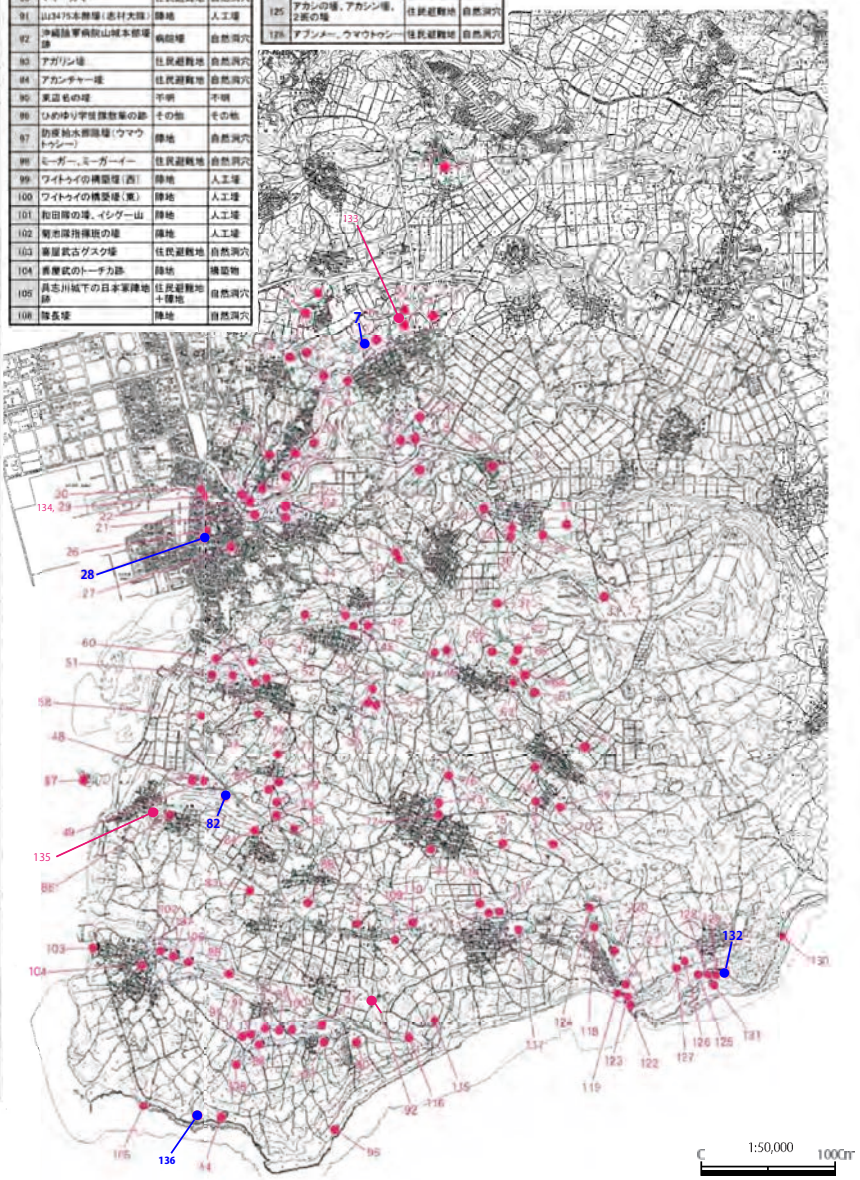
各番	戦争遺跡名	種別	形態
72	アンガー	住民避難地	自然洞穴
73	千人壕(アンディラガマ)	住民避難地	自然洞穴
74	シラカー	住民避難地	自然洞穴
75	タージリガマ	住民避難地	自然洞穴
76	寺山車両倒構築壕	陣地	人工壕
77	伊敷グスク、タキンチャ	陣地	自然洞穴
78	第24師団第2野戦病院壕跡(糸洲の壕)	病院壕	自然洞穴
79	ウンジャー、ウンザー、ダキヤマ	住民避難地	自然洞穴
80	クラガー、二本松の壕	住民避難地	自然洞穴
81	トーグワー	住民避難地	自然洞穴
82	森の壕跡	住民避難地＋陣地	自然洞穴
83	アカサーアブ、アカサー壕	住民避難地	自然洞穴
84	糸洲第二外科壕	病院壕	自然洞穴
85	新馬東北の自然壕	住民避難地	自然洞穴
86	井戸堀流の碑の保存	被災痕跡	建造物
87	エーギナーのガマ、エージナ、ハブ島	陣地	人工壕
88	メーンタキの壕、高平グスクの壕	不明	不明
89	ンタビーアブ	住民避難地	自然洞穴
90	マヤーガマ	住民避難地	自然洞穴
91	山3475本部隊(志村大隊)	陣地	人工壕
92	沖縄陸軍病院山城本部壕跡	病院壕	自然洞穴
93	アガリン壕	住民避難地	自然洞穴
94	アカンチャー壕	住民避難地	自然洞穴
95	東迫毛の壕	不明	不明
96	ひめゆり学徒隊慰霊の碑	その他	その他
97	防衛給水部隊壕(ウマウトゥシー)	陣地	自然洞穴
98	ミーガー、ミーガーイー	住民避難地	自然洞穴
99	ワイトライの構築壕(西)	陣地	人工壕
100	ワイトライの構築壕(東)	陣地	人工壕
101	和田原の壕、イシグー山	陣地	人工壕
102	菊部隊指揮班の壕	陣地	人工壕
103	喜屋武古グスク壕	住民避難地	自然洞穴
104	喜屋武のトーチカ跡	陣地	構築物
105	具志川城下の日本軍陣地跡	住民避難地＋陣地	自然洞穴
106	陣長壕	陣地	自然洞穴

糸満市③

各番	戦争遺跡名	種別	形態
107	陣長壕近くの医務室壕	陣地	人工壕
108	当間グスク	不明	不明
109	沖縄陸軍病院伊原第1外科壕跡	病院壕	自然洞穴
110	沖縄陸軍病院伊原第3外科壕跡	病院壕	自然洞穴
111	部落後ろの構築壕	陣地	人工壕
112	ウムニーガマ	住民避難地	自然洞穴
113	クシンカー	住民避難地?	不明
114	クラガー前の構築壕	陣地	人工壕
115	シーガーアブ、既有神中将自決の壕	陣地	人工壕(一部自然洞穴)
116	波利砲陣地(武部隊)	陣地	人工壕
117	フシゾウ、徳門アブ	住民避難地	自然洞穴
118	アマンゾウ	住民避難地	自然洞穴
119	大度海岸軍構築壕	陣地	人工壕
120	大度の軍構築壕	陣地	自然洞穴
121	宜さっきの城南東軍構築壕	陣地	人工壕
122	サシキンガマ、サシチンガマ	住民避難地	自然洞穴
123	パンタ原壕	住民避難地	自然洞穴
124	マヤーン壕	住民避難地	自然洞穴
125	アカシの壕、アカシン壕、2班の壕	住民避難地	自然洞穴
126	アブンメー、ウマウトゥシー	住民避難地	自然洞穴

糸満市④

各番	戦争遺跡名	種別	形態
127	ウナヤタイ壕、1班の壕	住民避難地	自然洞穴
128	カーデラの壕、3班の壕	住民避難地	自然洞穴
129	沖縄師範健児之塔付近の壕跡	学徒陣壕	自然洞穴
130	チガドー壕、アガリスバナの壕	住民避難地	自然洞穴
131	フチヤマの壕	住民避難地	自然洞穴
132	摩文仁司令部壕跡	司令部壕	人工壕
133	賀数の陣地壕跡群	陣地	人工壕
134	海大鼻記念碑跡	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
135	名城の水タンクの煙突	被災痕跡	建造物
136	喜屋武海軍望楼跡	海軍望楼・見張所	構築物
137	糸洲防空監視哨跡	防空監視哨	構築物



戦争遺跡分布図（10）

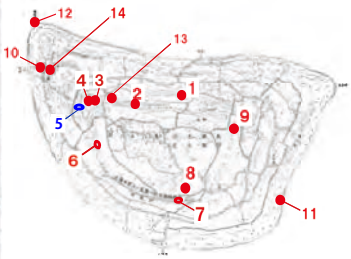
北大東村・南大東村・渡名喜村・渡嘉敷村・座間味村

渡名喜村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	桃原家の住民避難壕	住民避難地	人工壕
2	ヒンプンの弾痕	被災痕跡	建造物
3	家屋の弾痕	被災痕跡	建造物
4	ヒンプンと付属舎の弾痕	被災痕跡	建造物
5	ヘーワダヌガマ	住民避難地	自然洞穴
6	ユブクの住民避難地域	住民避難地	人工壕
7	アマンザキの住民避難域	住民避難地	自然洞穴
8	アンジェーラの住民避難地域	住民避難地	自然洞穴

北大東村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	北泉洞	住民避難地＋陣地	自然洞穴
2	中野の小銃保管壕	陣地	人工壕
3	裏陣台の砲台跡・コンクリート製壕跡	陣地	構築物
4	裏陣台の監視所跡	陣地	構築物
5	黄金山の陸軍本部壕跡群	陣地	人工壕
6	長基北方の陣地壕（大正村の壕）跡	住民避難地	人工壕
7	長基南端（山上陣）の陣地壕跡	陣地	人工壕
8	井上陣の井戸（井上陣ガー）	その他	構築物
9	玉城第2洞	住民避難地	自然洞穴
10	旧東洋製糖北大東出張所跡の弾痕	被災痕跡	建造物
11	見張海岸の砲座跡	陣地	構築物
12	燕形岬の壕跡	特攻艇秘匿壕？	人工壕
13	形状陣裏の壕	不明	自然洞穴
14	忠六荘	戦争に関連する施設・記念碑	建造物

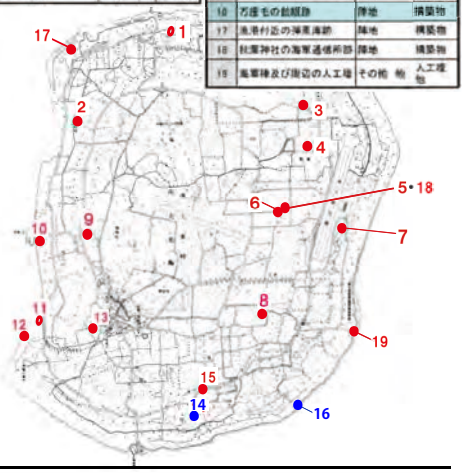


南大東村①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	パリパリ壕（陣地跡）	陣地	自然洞穴
2	星野洞	住民避難地	自然洞穴
3	小沢洞砲台跡（小沢洞（陣地壕））	陣地	自然洞穴
4	山下洞陸軍本部壕跡	陣地	自然洞穴
5	宇新東の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
6	秋葉神社島区の弾痕	被災痕跡	建造物
7	旧東の弾薬庫跡	陣地	人工壕
8	今村軍ニ印穴	住民避難地	自然洞穴

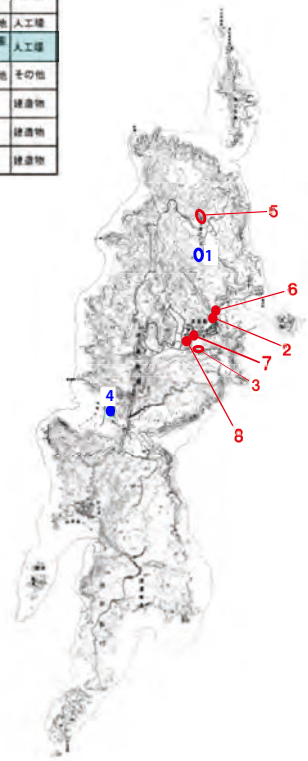
南大東村②

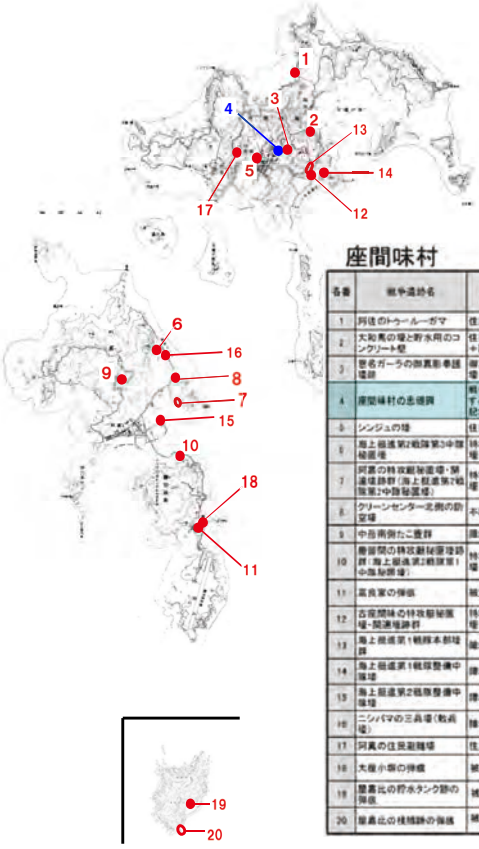
各番	戦争遺跡名	種別	形態
9	大東神社の海軍本部壕跡群	陣地	人工壕
10	金城屋宮の陣地とガマ	住民避難地＋陣地	人工壕（一部自然洞穴）
11	交通壕・タコツボ群	陣地	構築物
12	海岸の観測跡	陣地	構築物
13	鳥島堂洞陸軍本部壕跡	陣地	自然洞穴
14	亀池港北東の海軍監視所跡（型視所（東））	陣地	構築物
15	日の丸山電波探知機壕跡	所行場	人工壕
16	万座毛の砲座跡	陣地	構築物
17	港湾付近の海軍海跡	陣地	構築物
18	秋葉神社の海軍通信所跡	陣地	構築物
19	海軍棟及び周辺の人工壕	その他	人工壕物



渡嘉敷村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	北山の陸地壕跡群	陣地	人工壕
2	渡嘉敷村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
3	渡嘉敷の住民避難壕	住民避難地	人工壕
4	座間味村阿佐ヒジャ浜岸の特攻艇秘匿壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
5	北山の住民避難地跡	住民避難地	その他
6	慶良間工場跡煙突の弾痕	被災痕跡	建造物
7	根元家石垣の弾痕	被災痕跡	建造物
8	渡嘉敷神社鳥居の弾痕	被災痕跡	建造物





座間味村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	阿佐のトラ・ルーガマ	住民避難地	自然洞穴
2	大和集の壕と野水用のコンクリート壁	住民避難地＋陣地	人工壕
3	登ガーラの御真影奉護壕跡	御真影奉護壕	人工壕
4	座間味村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	シンジュの壕	住民避難地	人工壕
6	海上挺進第2戦隊第3中隊秘匿壕	特攻艇秘匿壕	人工壕
7	阿真の特攻艇秘匿壕・関連壕跡群（海上挺進第2戦隊第2中隊秘匿壕）	特攻艇秘匿壕	人工壕
8	クリーンセンター北側の防空壕	不明	人工壕
9	中島南側たこ壺群	陣地	構築物
10	慶留間の特攻艇秘匿壕跡群（海上挺進第2戦隊第1中隊秘匿壕）	特攻艇秘匿壕	人工壕
11	高良家の弾痕	被災痕跡	建造物
12	古座間味の特攻艇秘匿壕・関連壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
13	海上挺進第1戦隊本部壕跡	陣地	人工壕
14	海上挺進第1戦隊整備中隊壕	陣地	人工壕
15	海上挺進第2戦隊整備中隊壕	陣地	人工壕
16	ニシバマの三高壕（船着壕）	陣地	人工壕
17	阿真の住民避難壕	住民避難地	人工壕
18	大槍小学の弾痕	被災痕跡	建造物
19	慶嘉比の貯水タンク跡の弾痕	被災痕跡	建造物
20	慶嘉比の機銃跡の弾痕	被災痕跡	建造物

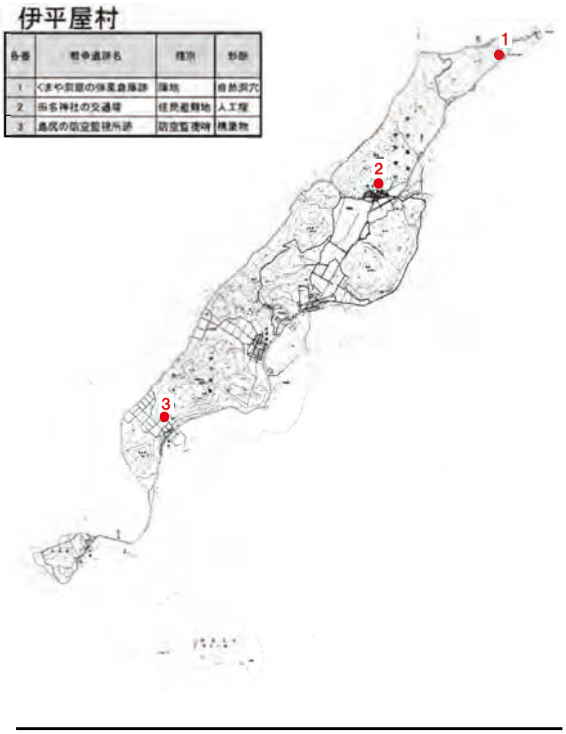
1:75,000　2000m

戦争遺跡分布図(11)

伊平屋村・伊是名村・粟国村・久米島町・宮古島市・多良間村

伊平屋村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	くまや別荘の弾薬倉庫跡	陣地	自然洞穴
2	市名神社の交通壕	住民避難地	人工壕
3	島民の防空監視所跡	防空監視哨	構築物

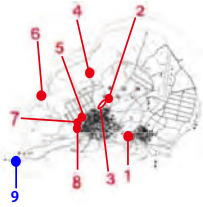


伊是名村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	山中学校跡付近の壕	住民避難地	人工壕
2	諸見サキ原避難壕地帯	住民避難地	人工壕

粟国村

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	粟国村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
2	テカーのガマ	住民避難地	自然洞穴
3	ウページの住民避難壕群	住民避難地	自然洞穴
4	ナラ	住民避難地	自然洞穴
5	ヤエガーのガマ	住民避難地	自然洞穴
6	ウカハのガマとその周辺	住民避難地	自然洞穴
7	海軍数人の住民避難壕	住民避難地	人工壕
8	内盛勇信氏宅の住民避難壕	住民避難地	人工壕
9	真島氏の砲台跡	砲陣地	構築物



久米島町

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	アナガー	住民避難地	自然洞穴
2	ヤジャーガマ	住民避難地	人工壕(一部自然洞穴)
3	アナガー	住民避難地	自然洞穴
4	上田森海軍特設見張所跡	海軍望楼・見張所	構築物
5	上江洲家の弾痕	被災痕跡	建造物
6	海食洞	住民避難地	自然洞穴
7	大田の住民避難壕	住民避難地	人工壕
8	嶺村家の弾痕	被災痕跡	建造物
9	たいよう道路東側の壕跡	不明	人工壕
10	御大典記念井泉	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
11	清田家の弾痕	被災痕跡	建造物
12	喜久村家の防空壕跡	住民避難地	人工壕
13	字根ワイトッイの防空壕	住民避難地	人工壕
14	比嘉一本松の住民避難壕	住民避難地	人工壕
15	防空壕跡	住民避難地	人工壕
16	カニガー	住民避難地	人工壕
17	ウシータンメーの壕	住民避難地	人工壕
18	宇江城岳南麓の壕群(ニブチ壕)	陣地	人工壕
19	西銘モートンダの防空壕跡群	住民避難地	人工壕

宮古島市①(伊良部島・下地島)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	旧伊良部村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
2	国仲の避難壕	住民避難地	人工壕
3	佐良浜の避難壕	住民避難地	人工壕
4	カンギィダツ壕・カヤフヲヤ壕	特攻艇秘匿壕ケ	自然洞穴
5	牧山陣地壕	陣地	人工壕

多良間村

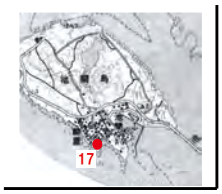
各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	シュガガー・ウスヌカー	住民避難地	自然洞穴
2	塩川御嶽のトンバラ	住民避難地	自然洞穴
3	ヤマトゥビィトットンバラ	住民避難地	自然洞穴
4	アマガー	防風形牛舎壕	自然洞穴

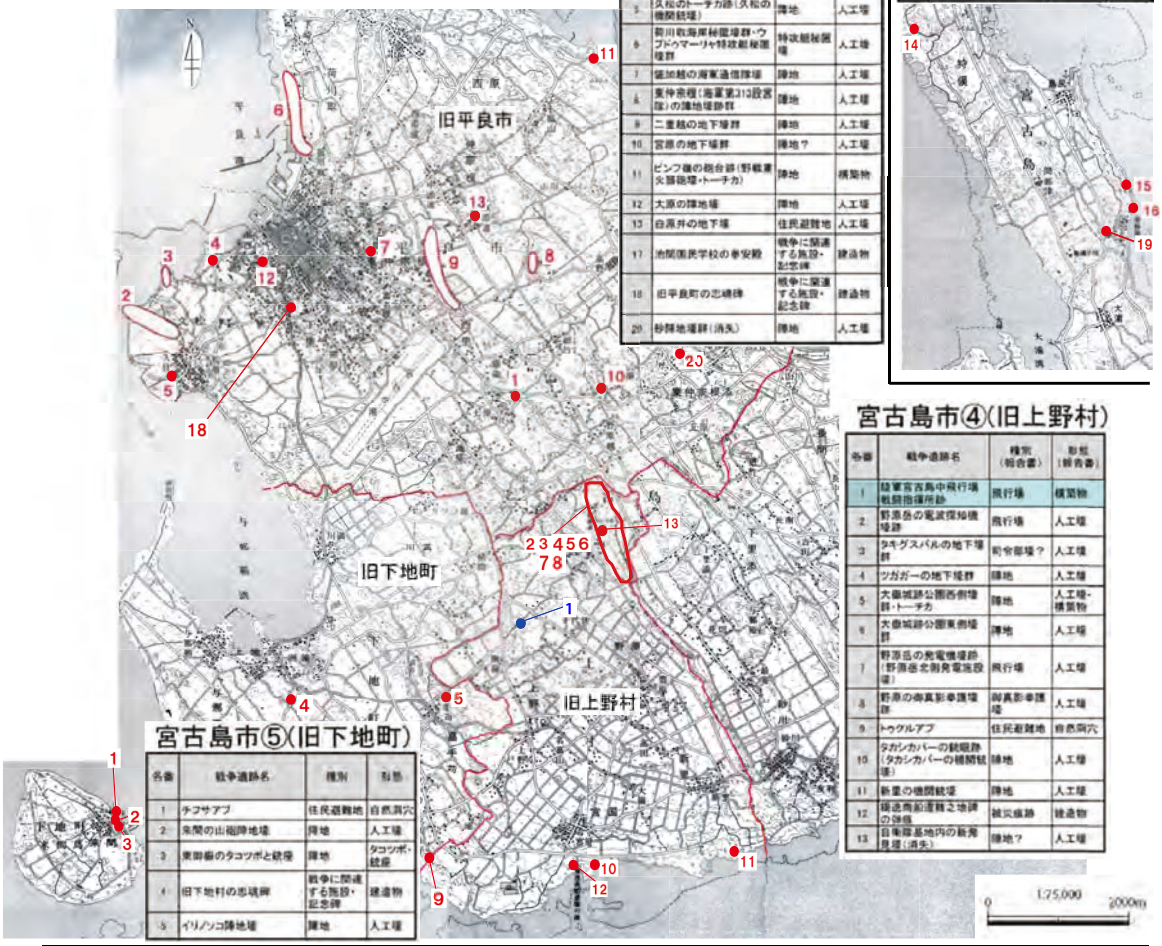
1:100,000

0 3000m

戦争遺跡分布図（12）

宮古島市





宮古島市②（旧平良市1）

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	那底の地下壕	不明	人工壕
2	大浜の特攻艇秘匿壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
3	トゥリバー浜特攻艇秘匿壕群	特攻艇秘匿壕	人工壕（一部自然洞穴）
4	パイナガマビーチの機関銃壕	陣地	人工壕
5	久松のトーチカ跡（久松の機関銃壕）	陣地	人工壕
6	前川敢海岸秘匿壕群・ウブドゥマーリヤ特攻艇秘匿壕群	特攻艇秘匿壕	人工壕
7	張加越の海軍通信隊壕	陣地	人工壕
8	東仲宗根（海軍第213設営隊）の陣地壕跡群	陣地	人工壕
9	二重越の地下壕群	陣地	人工壕
10	宮原の地下壕群	陣地？	人工壕
11	ビンフ嶺の砲台跡（野戦重火器砲撃・トーチカ）	陣地	構築物
12	大原の陣地壕	陣地	人工壕
13	白原井の地下壕	住民避難地	人工壕
17	池間国民学校の拝殿	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
18	旧平良町の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
20	砂降地壕群（消失）	陣地	人工壕

宮古島市③（旧平良市2）

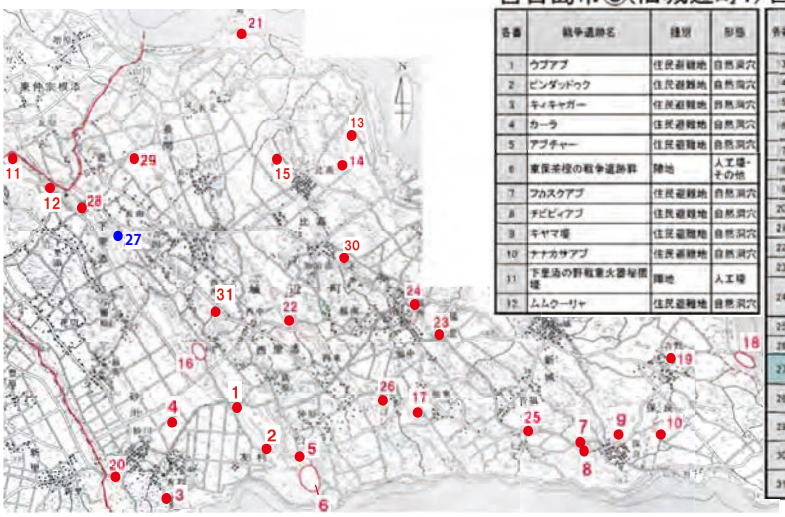
各番	戦争遺跡名	種別	形態
14	狩俣ヌーザランミの特攻艇秘匿壕跡群（ヌーザランミ特攻艇秘匿壕）	特攻艇秘匿壕	人工壕
15	宮古南静園の避難壕	住民避難地	自然洞穴
16	宮古南静園の重火器砲壕	陣地	人工壕
19	南静園の塀の弾痕	被災痕跡	建造物

宮古島市④（旧上野村）

各番	戦争遺跡名	種別（報告書）	形態（報告書）
1	陸軍宮古島中飛行場戦闘指揮所跡	飛行場	構築物
2	野原岳の電波探知機壕跡	飛行場	人工壕
3	タキグスバルの地下壕群	前令部壕？	人工壕
4	ツガガーの地下壕群	陣地	人工壕
5	大泉城跡公園西側壕群・トーチカ	陣地	人工壕・構築物
6	大泉城跡公園東側壕群	陣地	人工壕
7	野原岳の発電機壕跡（野原岳北側発電施設壕）	飛行場	人工壕
8	野原の南風影壕護壕跡	飛行場	人工壕
9	トゥクルアブ	住民避難地	自然洞穴
10	タガシカバーの銃眼跡（タガシカバーの機関銃壕）	陣地	人工壕
11	新里の機関銃壕	陣地	人工壕
12	砲弾商船遭難者之碑の弾痕	被災痕跡	建造物
13	日本陸軍基地内の新海見壕（消失）	陣地？	人工壕

宮古島市⑤（旧下地町）

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	チフサアブ	住民避難地	自然洞穴
2	朱間の出張陣地壕	陣地	人工壕
3	東御嶽のタコツボと銃座	陣地	タコツボ・銃座
4	旧下地村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
5	イリノソコ陣地壕	陣地	人工壕



宮古島市⑥（旧城辺町1）

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	ウブアブ	住民避難地	自然洞穴
2	ピンダッドゥク	住民避難地	自然洞穴
3	キィキャガー	住民避難地	自然洞穴
4	カーラ	住民避難地	自然洞穴
5	アブチャー	住民避難地	自然洞穴
6	東保茶樓の戦争遺跡群	陣地	人工壕・その他
7	フカスクアブ	住民避難地	自然洞穴
8	チビビィアブ	住民避難地	自然洞穴
9	キヤマ壕	住民避難地	自然洞穴
10	ナナカサアブ	住民避難地	自然洞穴
11	下里添の野戦重火器秘匿壕	陣地	人工壕
12	ムムクーリャ	住民避難地	自然洞穴

宮古島市⑦（旧城辺町2）

各番	戦争遺跡名	種別	形態
3	インヌチアブ	住民避難地	自然洞穴
4	イサガヌヤブ	住民避難地	自然洞穴
5	自然壕	住民避難地	自然洞穴
6	アーリヤマの戦争遺跡群	陣地	人工壕・構築物
7	自然壕	住民避難地	自然洞穴
18	吉野海岸の壕	不明	人工壕
19	兵隊壕	陣地	自然洞穴
20	クスストゥブ（ミヤー）	その他	自然洞穴
21	砲台	陣地	構築物
22	ミルク嶺の地下壕群	陣地	人工壕
23	兵隊壕	陣地	建造物
24	旧城辺村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
25	ウンスヤー	住民避難地	自然洞穴
26	ダンガマヤー	住民避難地	自然洞穴
27	西更竹前令部壕跡	前令部壕	人工壕
28	西更竹の避難壕（消失）	住民避難地	人工壕
29	長南陣地壕群（消失）	陣地	人工壕
30	加治道避難壕（消失）	住民避難地	人工壕
31	西中共同製糖工場跡の弾痕	被災痕跡	建造物

戦争遺跡分布図(13)

石垣市

石垣市①

各番	戦争遺跡名	種別	形態
1	フルスト原の無蓋掩体壕跡(フルスト原の海軍壕群)	飛行場	人工壕
2	宮良の特攻艇秘匿壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
3	地域御嶽の壕	陣地	人工壕
4	シイ原の壕	陣地	人工壕
5	大浜の掩体壕跡	飛行場	構築物
8	於茂登前山の砲台・弾薬庫跡	陣地	構築物
9	伊野田半島の壕	陣地	人工壕
10	白保・与那原の壕	陣地	人工壕
11	名蔵の海軍トーチカ	陣地	構築物
12	石垣氏宅の避難壕	住民避難地	人工壕
14	平喜名飛行場跡の電波探知機壕跡	飛行場	人工壕
15	宮良牧中の避難壕	住民避難地	自然洞穴
19	於茂登岳の戦争遺跡群	司令部壕＋病院壕＋陣地	人工壕・構築物
23	大浜ナーカーラの壕	陣地	人工壕
26	ヘーギナー壕・三連結壕	陣地	人工壕
30	サンニの慰安所	その他	構築物

石垣市②

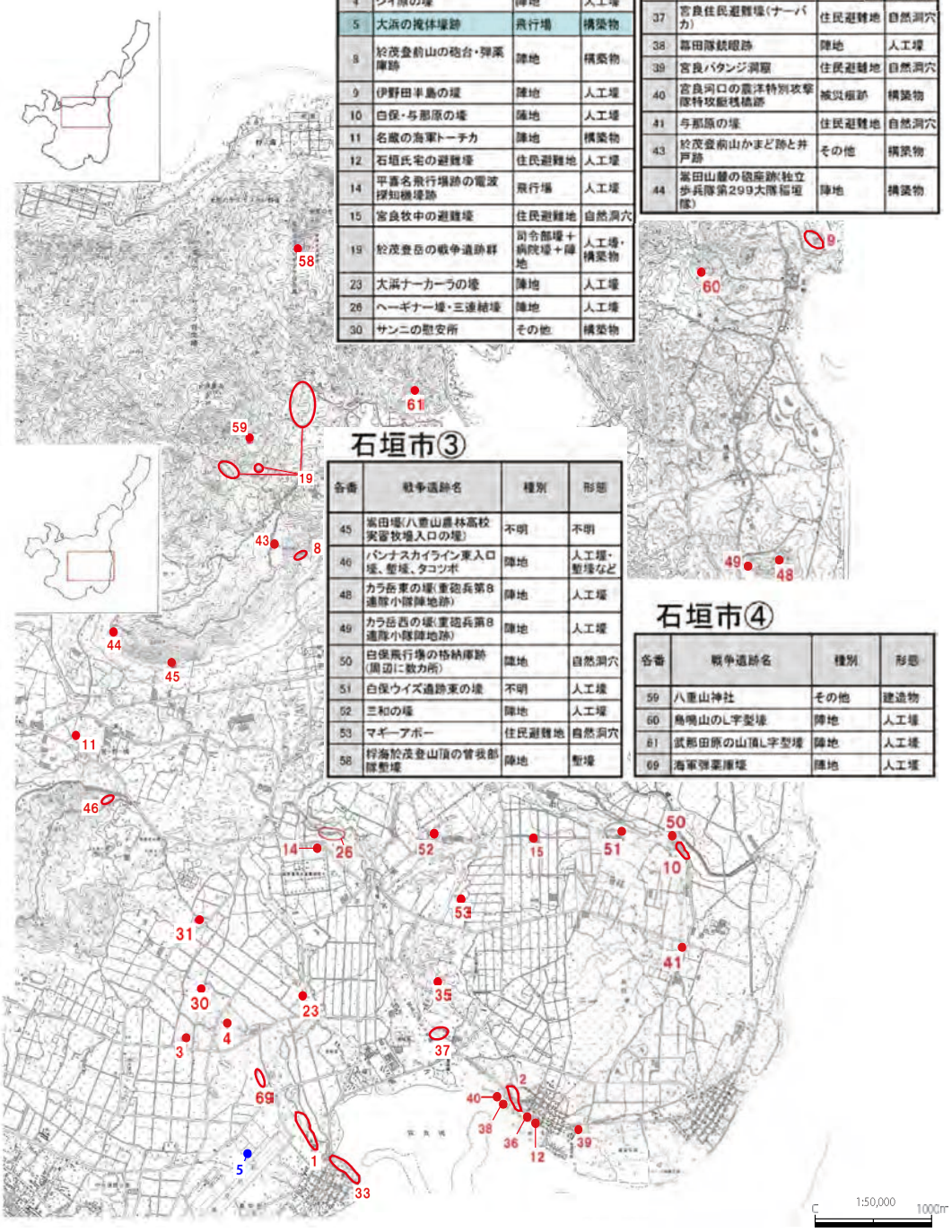
各番	戦争遺跡名	種別	形態
31	登野城バラビード入口の壕	陣地	人工壕
33	大浜東海岸の銃眼跡	陣地	人工壕
35	宮良・高山原の垂直L字型壕	陣地	人工壕
36	ナカノオンの壕	住民避難地	自然洞穴
37	宮良住民避難壕(ナーバカ)	住民避難地	自然洞穴
38	幕田隊銃眼跡	陣地	人工壕
39	宮良バタンジ洞窟	住民避難地	自然洞穴
40	宮良河口の震洋特別攻撃隊特攻艇桟橋跡	被災痕跡	構築物
41	与那原の壕	住民避難地	自然洞穴
43	於茂登前山かまど跡と井戸跡	その他	構築物
44	嵩田山麓の砲座跡(独立歩兵隊第299大隊稲垣隊)	陣地	構築物

石垣市③

各番	戦争遺跡名	種別	形態
45	嵩田壕(八重山農林高校実習牧場入口の壕)	不明	不明
46	バンナスカイライン東入口壕、塹壕、タコツボ	陣地	人工壕・塹壕など
48	カラ岳東の壕(重砲兵第8連隊小隊陣地跡)	陣地	人工壕
49	カラ岳西の壕(重砲兵第8連隊小隊陣地跡)	陣地	人工壕
50	白保飛行場の格納庫跡(周辺に数カ所)	陣地	自然洞穴
51	白保ウイズ遺跡東の壕	不明	人工壕
52	三和の壕	陣地	人工壕
53	マギーアボー	住民避難地	自然洞穴
58	桴海於茂登山頂の曽我部隊塹壕	陣地	塹壕

石垣市④

各番	戦争遺跡名	種別	形態
59	八重山神社	その他	建造物
60	鳥嶋山のL字型壕	陣地	人工壕
61	武那田原の山頂L字型壕	陣地	人工壕
69	海軍弾薬庫壕	陣地	人工壕

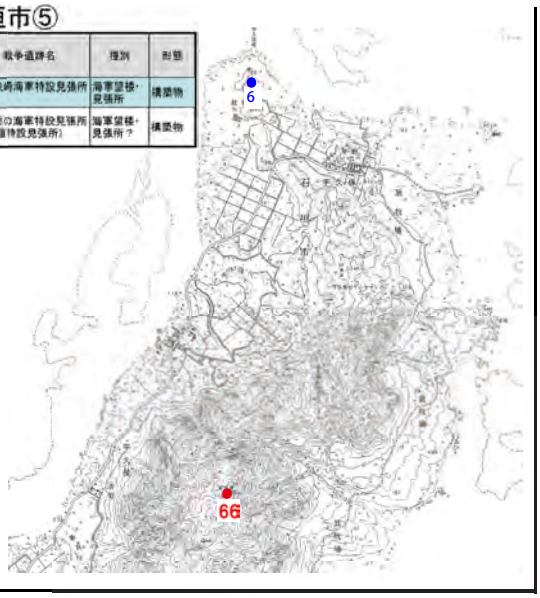


戦争遺跡分布図（14）

石垣市

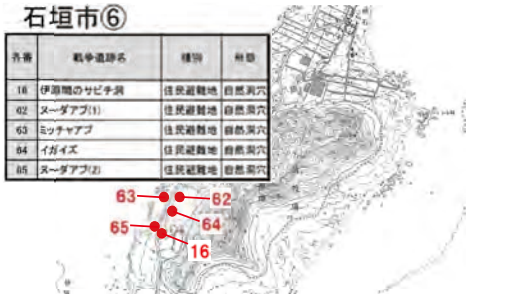
石垣市⑤

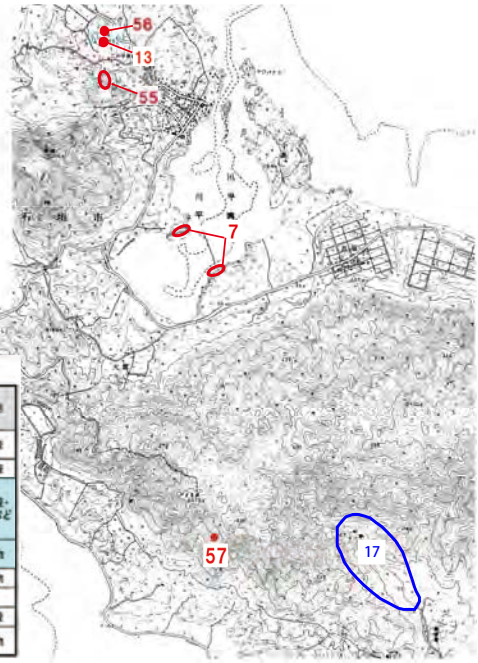
各番	戦争遺跡名	種別	形態
6	平久保崎海軍特設見張所跡	海軍望楼・見張所	構築物
66	安良原の海軍特設見張所跡(石垣特設見張所)	海軍望楼・見張所？	構築物

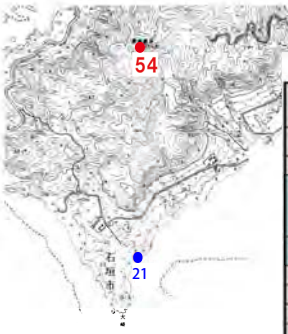


石垣市⑥

各番	戦争遺跡名	種別	形態
16	伊原間のサビチ洞	住民避難地	自然洞穴
62	ヌーダアブ(1)	住民避難地	自然洞穴
63	ミッチャアブ	住民避難地	自然洞穴
64	イガイズ	住民避難地	自然洞穴
65	ヌーダアブ(2)	住民避難地	自然洞穴





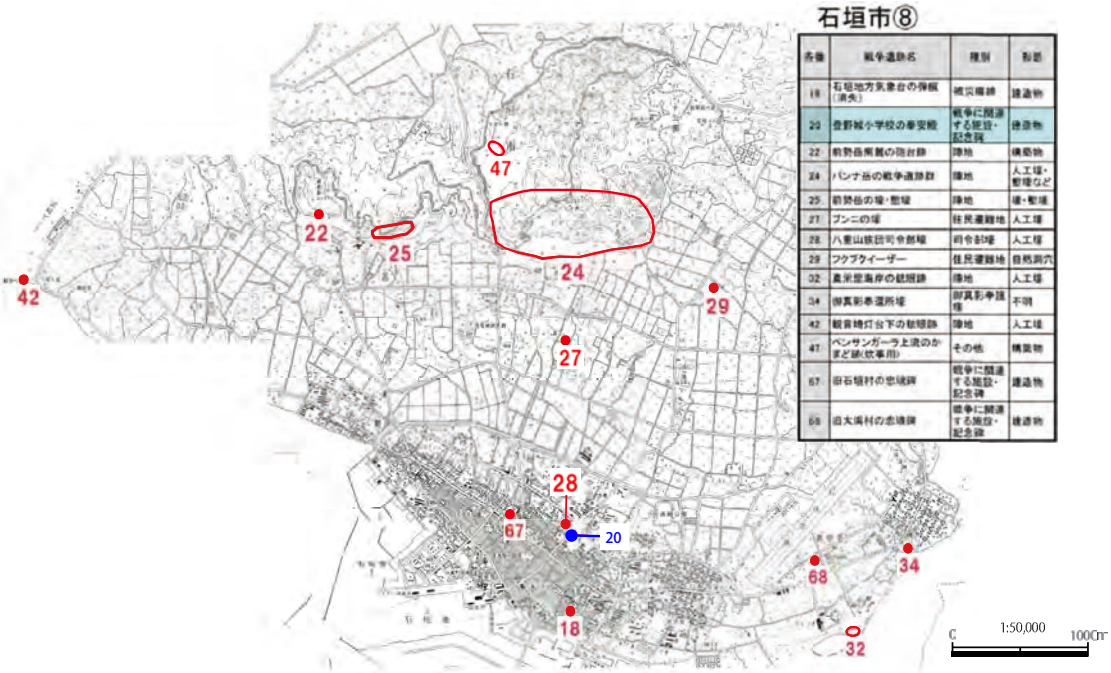


石垣市⑦

各番	戦争遺跡名	種別	形態
7	川平の特攻艇秘匿壕跡群	特攻艇秘匿壕	人工壕
13	仲間岡の壕	陣地	人工壕
17	名蔵白水の戦争遺跡群	住民避難地＋陣地＋官公庁壕＋御真影奉護壕＋その他	人工壕・整壕など
21	崎枝の海底線陸揚室跡(電信座)	海底線関係施設	建造物
54	屋良部岳の航台座跡	陣地	構築物
55	山川御嶽近辺の壕	不明	不明
56	獅子岡の壕	陣地	人工壕
57	シーラ原山頂にあるカノン砲台座跡	陣地	構築物

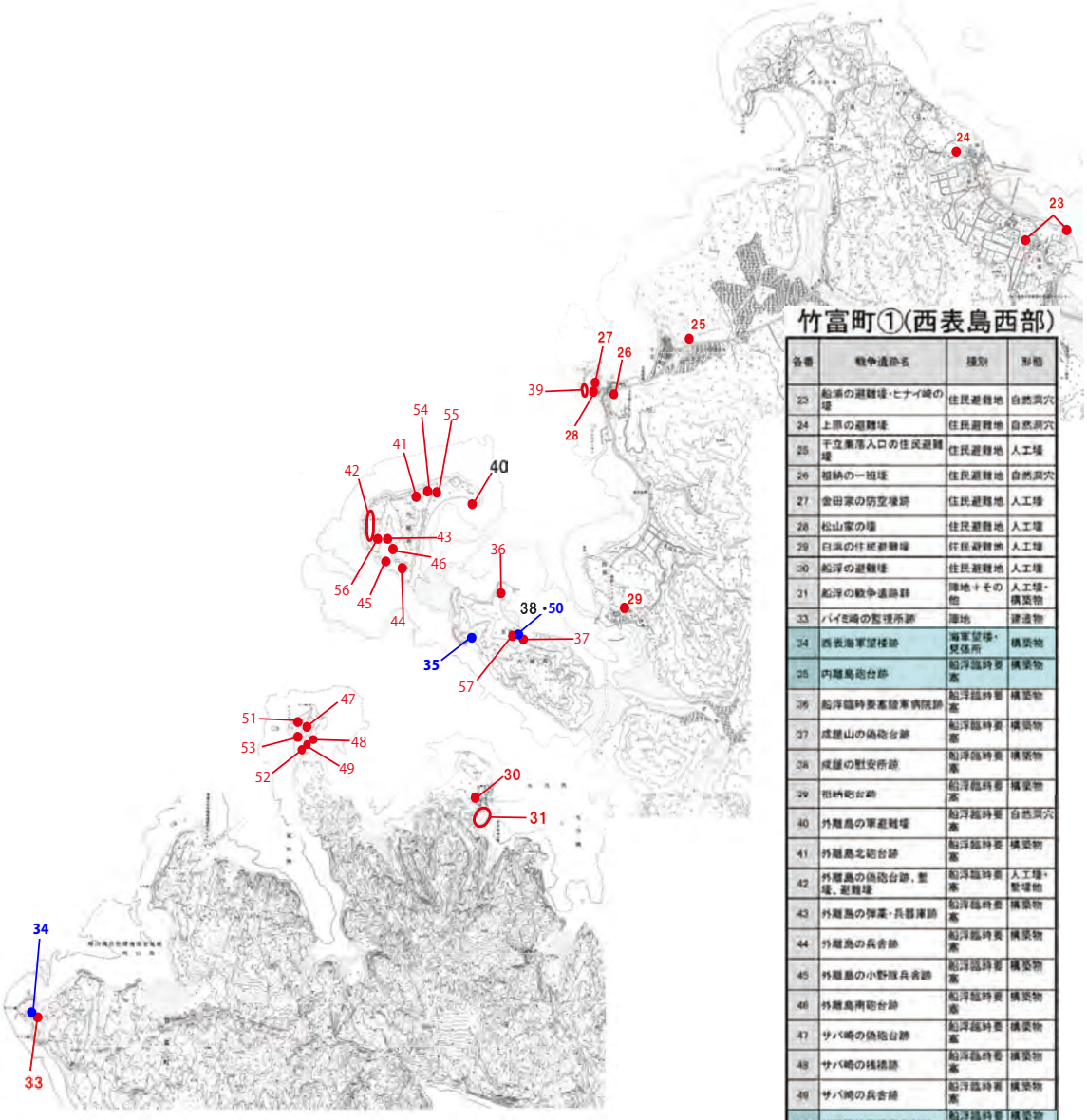
石垣市⑧

各番	戦争遺跡名	種別	形態
19	石垣地方気象台の煙突(消失)	被災痕跡	建造物
20	登野城小学校の奉安殿	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
22	前勢岳南麓の砲台跡	陣地	構築物
24	バンナ岳の戦争遺跡群	陣地	人工壕・整壕など
25	前勢岳の壕・整壕	陣地	壕・整壕
27	フンニの壕	住民避難地	人工壕
28	八重山旅団司令部壕	司令部壕	人工壕
29	フクブクイーザー	住民避難地	自然洞穴
32	真栄里海岸の航空跡	陣地	人工壕
34	御真影奉護所壕	御真影奉護壕	不明
42	観音崎灯台下の砲台跡	陣地	人工壕
47	ペンサンガーラ上流のかまど跡(炊事用)	その他	構築物
67	旧石垣村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物
68	旧大浜村の忠魂碑	戦争に関連する施設・記念碑	建造物



戦争遺跡分布図(15)

竹富町

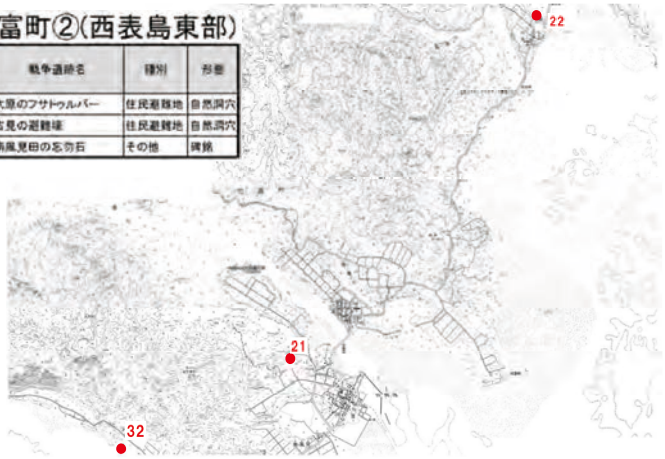


竹富町①(西表島西部)

各番	戦争遺跡名	種別	形態
23	船浦の避難壕・ヒナイ崎の壕	住民避難地	自然洞穴
24	上原の避難壕	住民避難地	自然洞穴
25	干立集落入口の住民避難壕	住民避難地	人工壕
26	祖納の一抱壕	住民避難地	自然洞穴
27	金田家の防空壕跡	住民避難地	人工壕
28	松山家の壕	住民避難地	人工壕
29	白浜の住民避難壕	住民避難地	人工壕
30	船浮の避難壕	住民避難地	人工壕
31	船浮の戦争遺跡群	陣地＋その他	人工壕・構築物
33	バイミ崎の監視所跡	陣地	建造物
34	西表海軍望楼跡	海軍望楼・見張所	構築物
35	内離島砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
36	船浮臨時要塞陸軍病院跡	船浮臨時要塞	構築物
37	成屋山の偽砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
38	成屋の慰安所跡	船浮臨時要塞	構築物
39	祖納砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
40	外離島の軍避難壕	船浮臨時要塞	自然洞穴
41	外離島北砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
42	外離島の偽砲台跡，整壕、避難壕	船浮臨時要塞	人工壕・整壕他
43	外離島の弾薬・兵器庫跡	船浮臨時要塞	構築物
44	外離島の兵舎跡	船浮臨時要塞	構築物
45	外離島の小野旅兵舎跡	船浮臨時要塞	構築物
46	外離島南砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
47	サバ崎の偽砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
48	サバ崎の桟橋跡	船浮臨時要塞	構築物
49	サバ崎の兵舎跡	船浮臨時要塞	構築物
50	船浮臨時要塞司令部跡	船浮臨時要塞	構築物
51	サバ崎砲台跡	船浮臨時要塞	構築物
52	サバ崎の建物跡1	船浮臨時要塞	構築物
53	サバ崎の建物跡2	船浮臨時要塞	構築物
54	外離島の水路地跡	船浮臨時要塞	構築物
55	外離島の建物跡	船浮臨時要塞	構築物
56	外離島の避難壕	船浮臨時要塞	構築物
57	内離島のH型構造物	船浮臨時要塞	構築物

竹富町②(西表島東部)

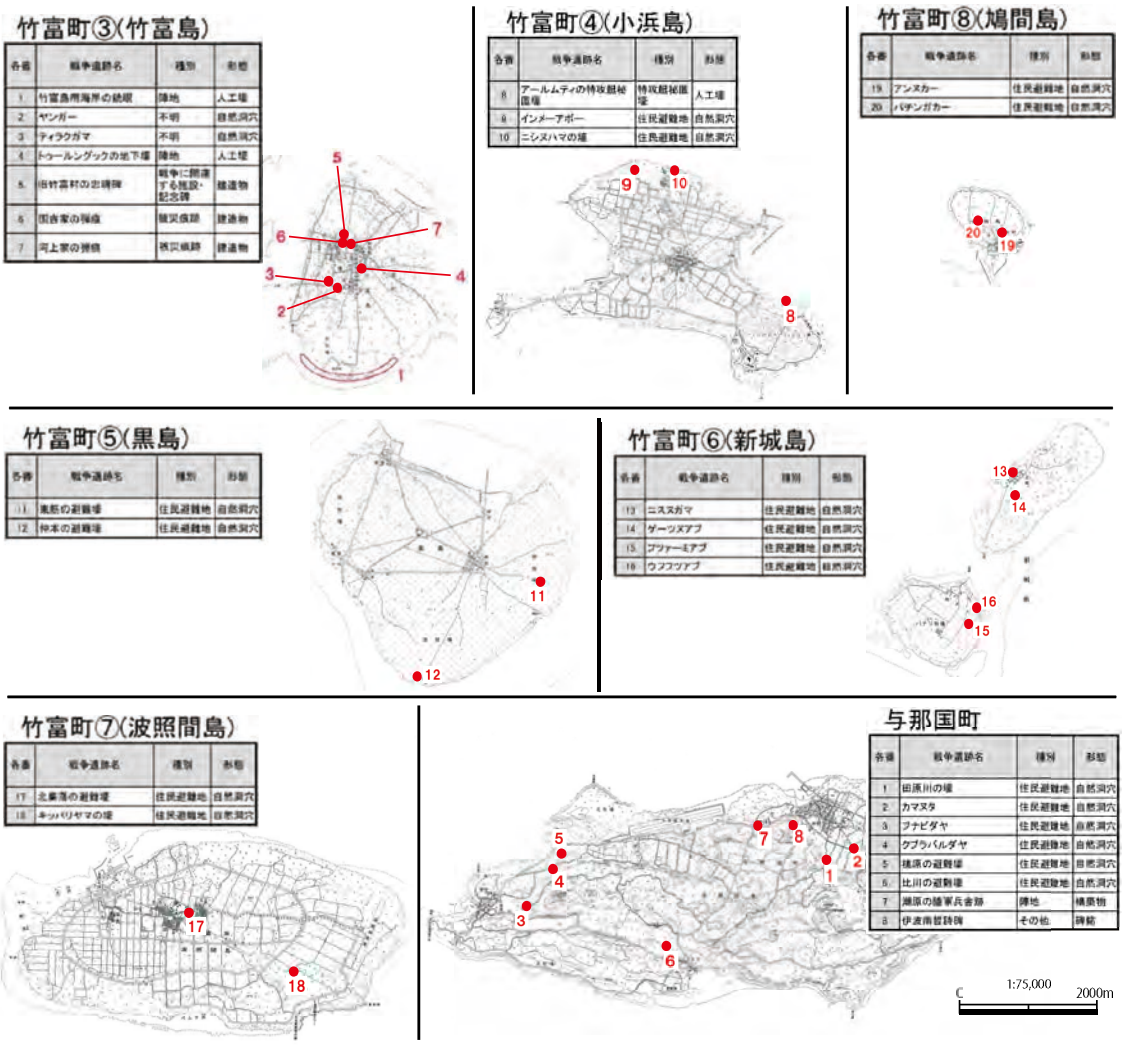
各番	戦争遺跡名	種別	形態
21	大原のフサトゥルバー	住民避難地	自然洞穴
22	古見の避難壕	住民避難地	自然洞穴
32	南風見田の忘勿石	その他	碑銘



1:75,000　2000m

戦争遺跡分布図(16)

竹富町・与那国町



戦争遺跡分布図　凡例

1．前回分布調査の成果報告である『沖縄県戦争遺跡詳細分布調査』Ⅰ～Ⅵの所収図を使用しているため、その時点での国土地理院の数値地図となっており、現在の地形や地名・施設名などと異なる場合がある。

2．前回分布調査時の戦争遺跡は継続指定掲載しているが、場所については一部修正しているものがある。なお、遺跡名は変更しているものについては、できるだけ旧名称をカッコづけで記すようにした。

3．今回の調査で把握した戦争遺跡も新たに加えている。

4．開発等で、おそらく全壊してしまったと見られる戦争遺跡については、遺跡名の欄に「消失」と付している。

5．遺跡名称については、今回調査したものについては「跡」を付しているが、全体の統一はしていない。
なお、自然洞穴を意味する「ガマ」や「アブ」については、呼称上、現時点では「跡」を付していない。

6．遺跡範囲については、広範囲に広がると確実に把握できたものは、線を括ることにより表現している。一方、ドットで示したものは、この範囲内にあるという程度の理解で、その範囲がさらに広くなる可能性は考えられる。

7．図録で取り上げた戦争遺跡は青字で示した。

※報告書を刊行した 2015 年３月時点では、1,076 ヶ所であったが、当センター 2001 年刊行『戦争遺跡詳細分布調査編（Ⅰ）－南部編－』で掲載したアガタヌメーガマ（南城市、旧玉城）が分布図より抜けていたことを同年６月に気付いた。そのため、これを追加すると 1,077 ヶ所となる。

平敷屋砲台跡（上：復元模型　下：砲台４周辺伐採後）

【平敷屋砲台跡復元模型　(20 分の１)】

　平敷屋砲台跡でどのような大砲が配備されたのかは資料や証言などからはわかっています。砲床に特徴的な５本の溝があることなどから、５本の砲脚がある 88 式７センチ野戦高射砲を配備することを意識して構築されたものと考えられます。この大砲は主に航空機を標的にしていたようです。

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754
HP http://www.pref.okinawa.jp/edu

入場無料

開所時間：午前9時～午後5時（入所は午後4時30分まで）
休　　所：毎週月曜日、年末年始
国民の祝日（こどもの日、文化の日を除く）、慰霊の日（6 月 23 日）
※月曜日が祝日となった時は、翌日の火曜日も休所
その他、臨時休所あり
交　　通：沖縄自動車道西原 IC より車で約 10 分
市外線バスターミナル発 那覇バス 97 番「琉大附属病院前」下車徒歩 3 分